

宇陀市 子育てに関するアンケート調査 調査結果概要

1. 調査の趣旨

第3期計画の策定にあたり、計画の当事者となる小学生や中学生、子どものいる保護者の方々より、ご自身のことや将来に対する思い、必要とする子ども・子育て支援に関する施策を把握などについて把握することを目的として調査を実施しました。

2. 調査概要

	保護者対象調査	小中学生対象調査
調査対象	市内にお住まいの 未就学児童のいる世帯 708 件	市内にお住まいの小学5・6年生 及び中学1～3年生 879 件
調査期間	令和6年1月17日（水） ～令和6年1月31日（水）	令和6年5月22日（水） ～令和6年6月6日（木）
調査方法	郵送配布・郵送回収による 本人記入方式	オンライン上での回答
有効回収数	431 件（60.9%）	820 件（93.3%）

3. 保護者対象調査結果の総括

①教育・保育施設の利用について

【調査結果のまとめ】

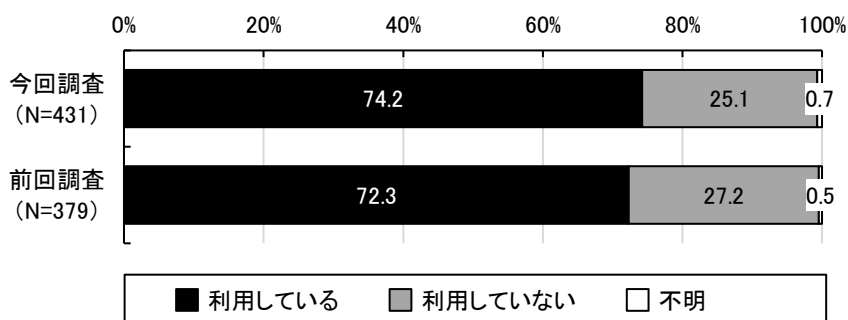
○平日の定期的な教育・保育事業の利用状況（グラフ1）について、「利用している」の回答割合は約7割で、前回調査と同程度の値となっています。利用している定期的な教育・保育の事業（グラフ2）については、「私立保育所（園）」が最も高く、次いで「認定こども園」、「公立保育所（園）」が高くなっています。前回調査と比較すると、「私立保育所（園）」が13ポイント程度、「幼稚園の預かり保育」が6ポイント程度上昇している一方、「公立保育所（園）」が10ポイント程度低下しています。

○今後定期的に利用したい教育・保育事業（グラフ3）については、「私立保育所（園）」が最も高く、次いで「認定こども園」、「公立保育所（園）」が高くなっています。前回調査と比較すると、「私立保育所（園）」が10ポイント程度、「幼稚園の預かり保育」が6ポイント程度上昇している一方、「公立保育所（園）」が20ポイント程度、「認定こども園」が10ポイント程度低下しています。

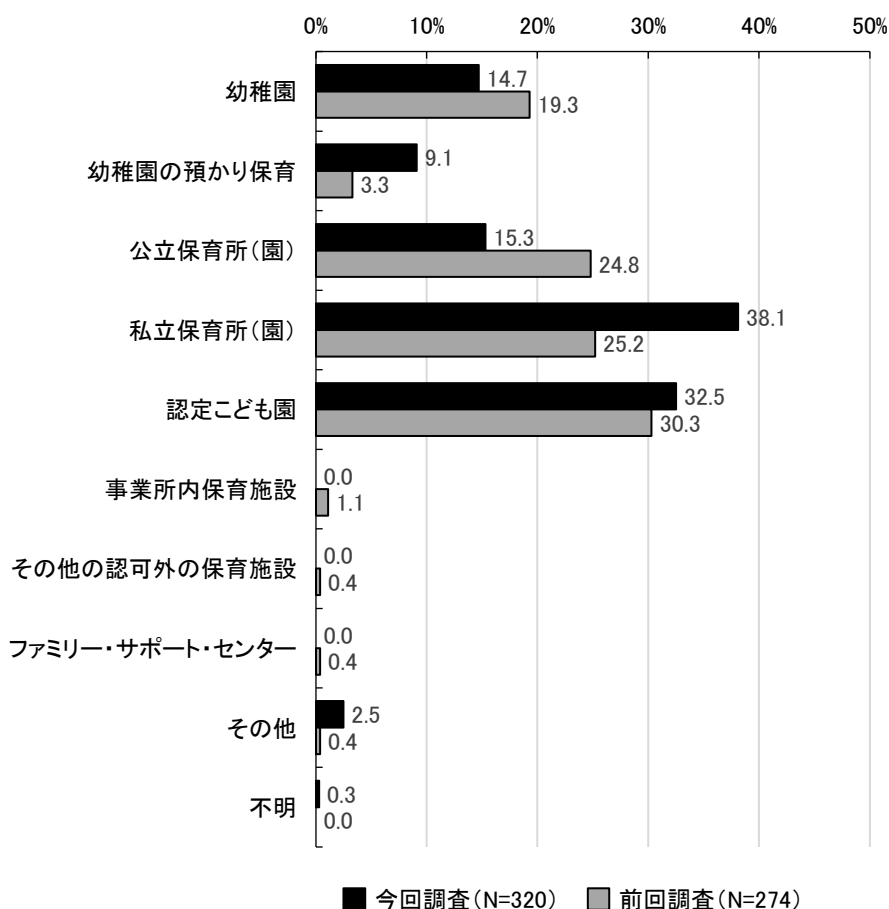
【考察】

- ➡私立の保育所（園）や認定こども園に対する利用意向が高く、特に0～1歳の低年齢層の子どもがいる場合や、保護者がともにフルタイムで働いている場合においてその傾向が大きくなっています。後の分析でもふれる通り、育児休業の取得は以前よりも進んでいますが、共働き世帯が増えていることや早期の職場復帰を希望する傾向の高まりも踏まえ、引き続き、柔軟な受け入れが可能な体制を確保していく必要があります。

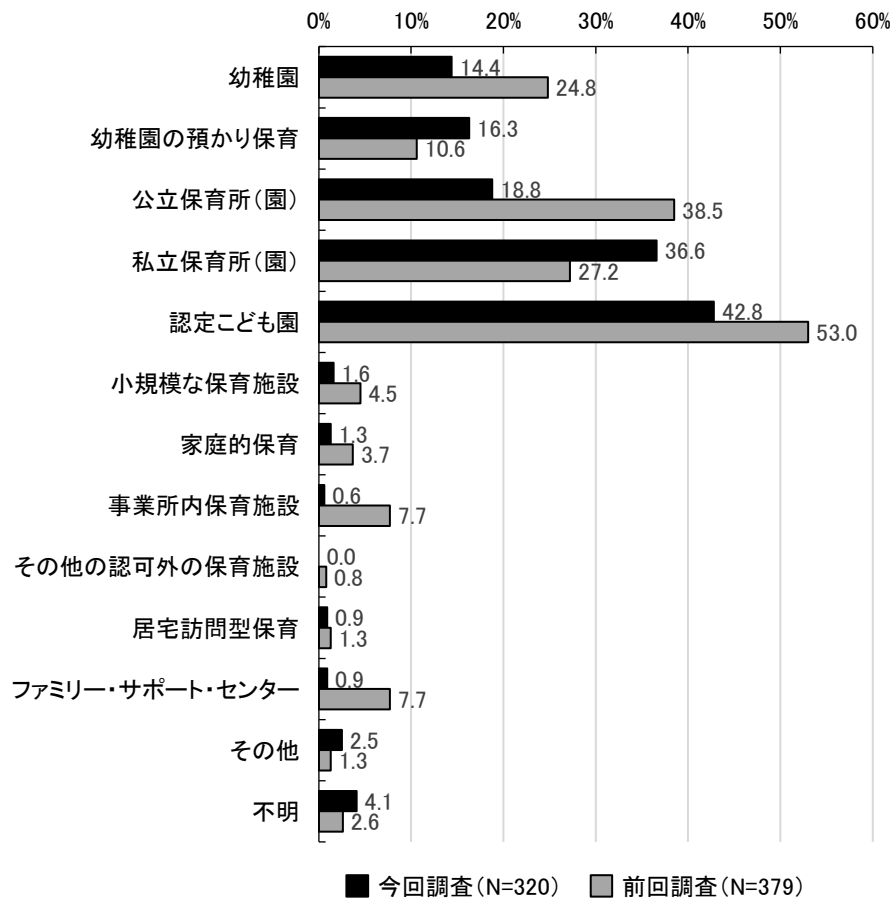
グラフ1. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況



グラフ2. 利用している定期的な教育・保育の事業



グラフ3. 今後定期的に利用したい教育・保育事業



②仕事と子育ての両立について

【調査結果のまとめ】

○育休取得の状況（グラフ4、5）について、「取得した（取得中である）」の回答割合は、父親で約1割、母親で約5割となっており、前回調査と比べて父親は6ポイント程度、母親は11ポイント上昇しています。

○育休を取得していない理由（グラフ6、7）について、父親では「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」「仕事が忙しかった」「収入減となり、経済的に苦しくなる」が高くなっており、これらの選択肢は前回調査より若干回答割合が上昇しています。一方で、母親では「子育てや家事に専念するために退職した」が高くなっています。

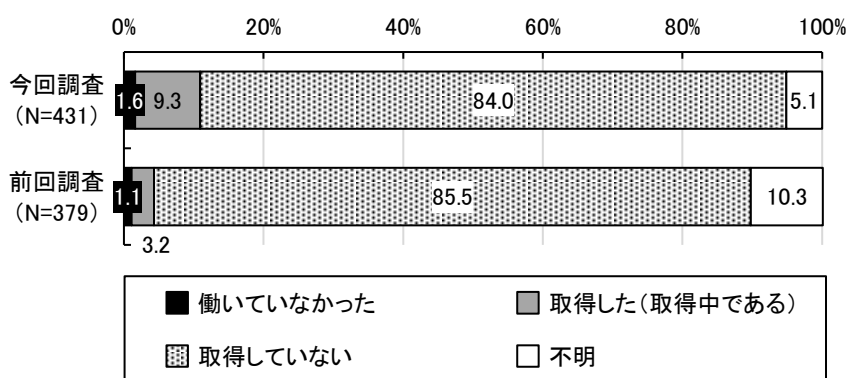
○子育てをするうえでの不安や負担、悩み（グラフ8）について、「子育てと仕事・キャリアの両立が難しい」が最も高くなっています。前回調査と比較すると、「子育てと仕事・キャリアの両立が難しい」は6ポイント程度上昇しています。

○周囲の身近な人に求めるサポート（グラフ9）について、「子どもの病気・園行事などで仕事を休むことを理解して欲しい」が最も高く、前回調査より16ポイント程度上昇しています。

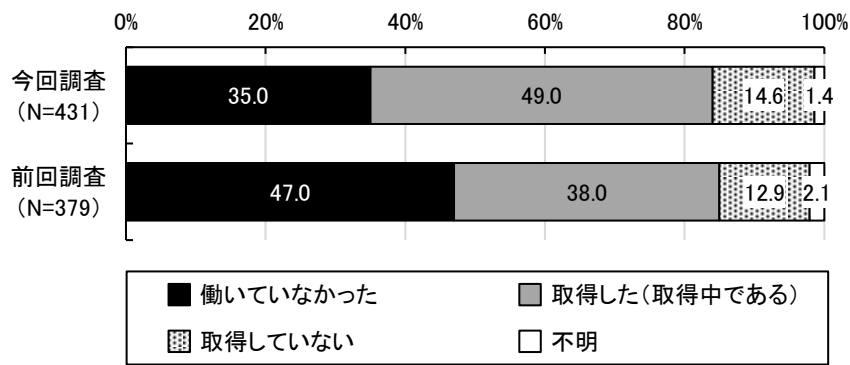
【考察】

➡今回の調査では、育休の取得状況もわずかながら改善されていることがうかがえる一方、職場における子育てへの理解がなかなか進んでいない現状がみられます。育児休業を取得しづらい、または早期に復帰しないといけない雰囲気や、子どものための休暇を取ることに對するためらいがあるといった意見は前回調査よりも高くなっており、共働き世帯が今後も増えることが予想される現状において、就労環境の改善は必要な取組です。事業所への働き掛けが重要となるため、庁内での商工部門や県の労働部門との連携をいっそう強めていくことが求められます。

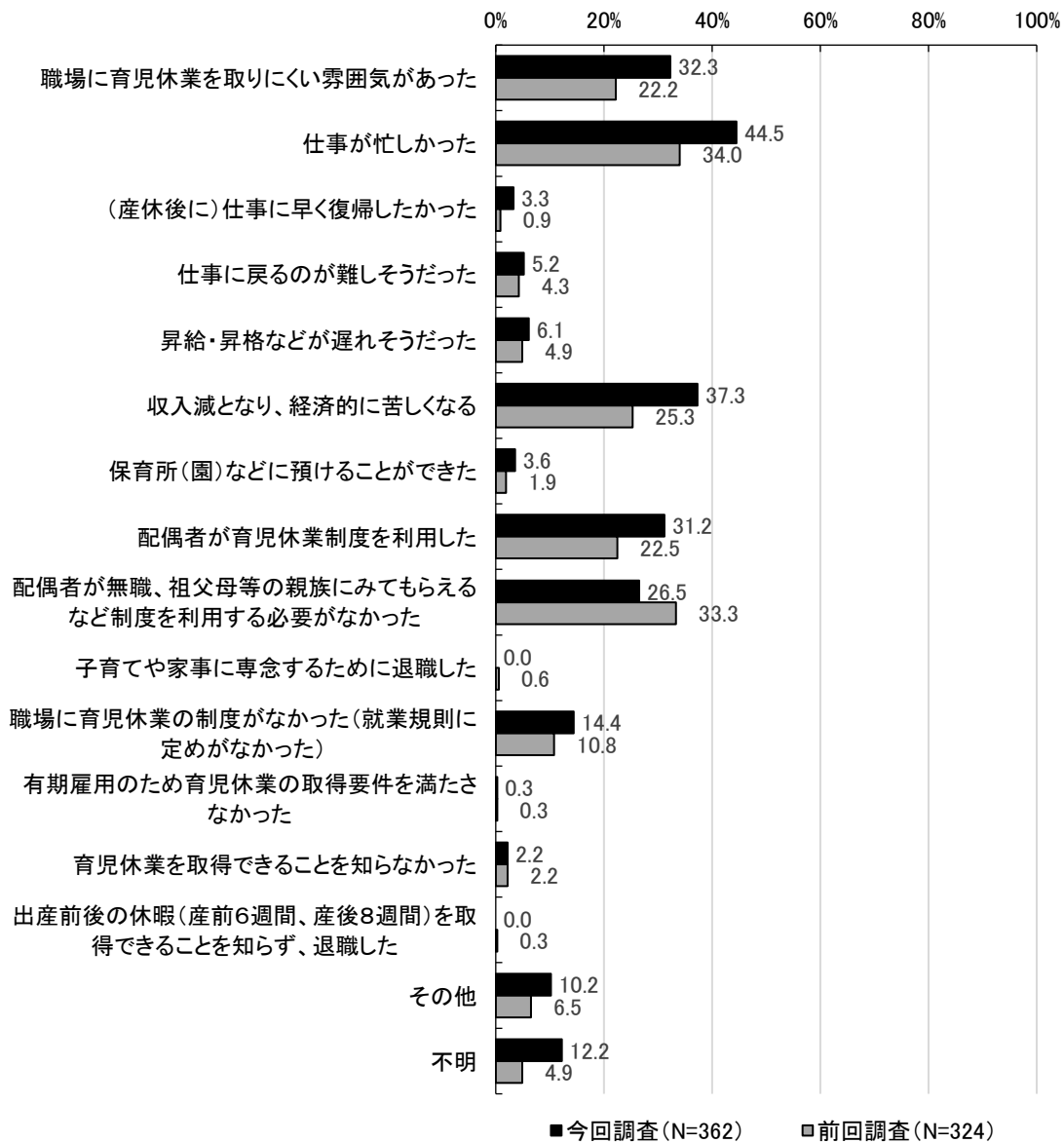
グラフ4. 育休取得の状況（父親）



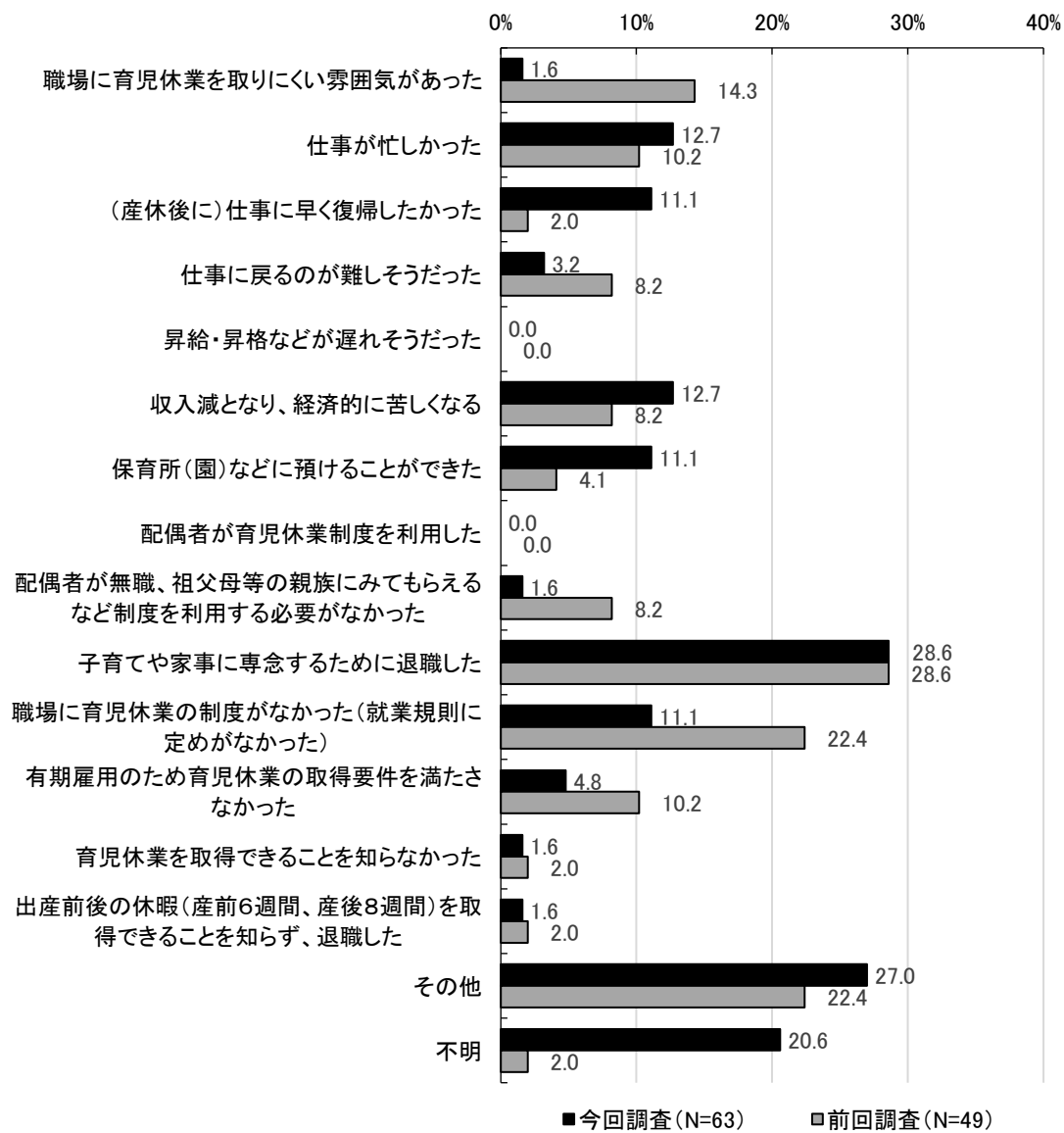
グラフ5. 育休取得の状況（母親）



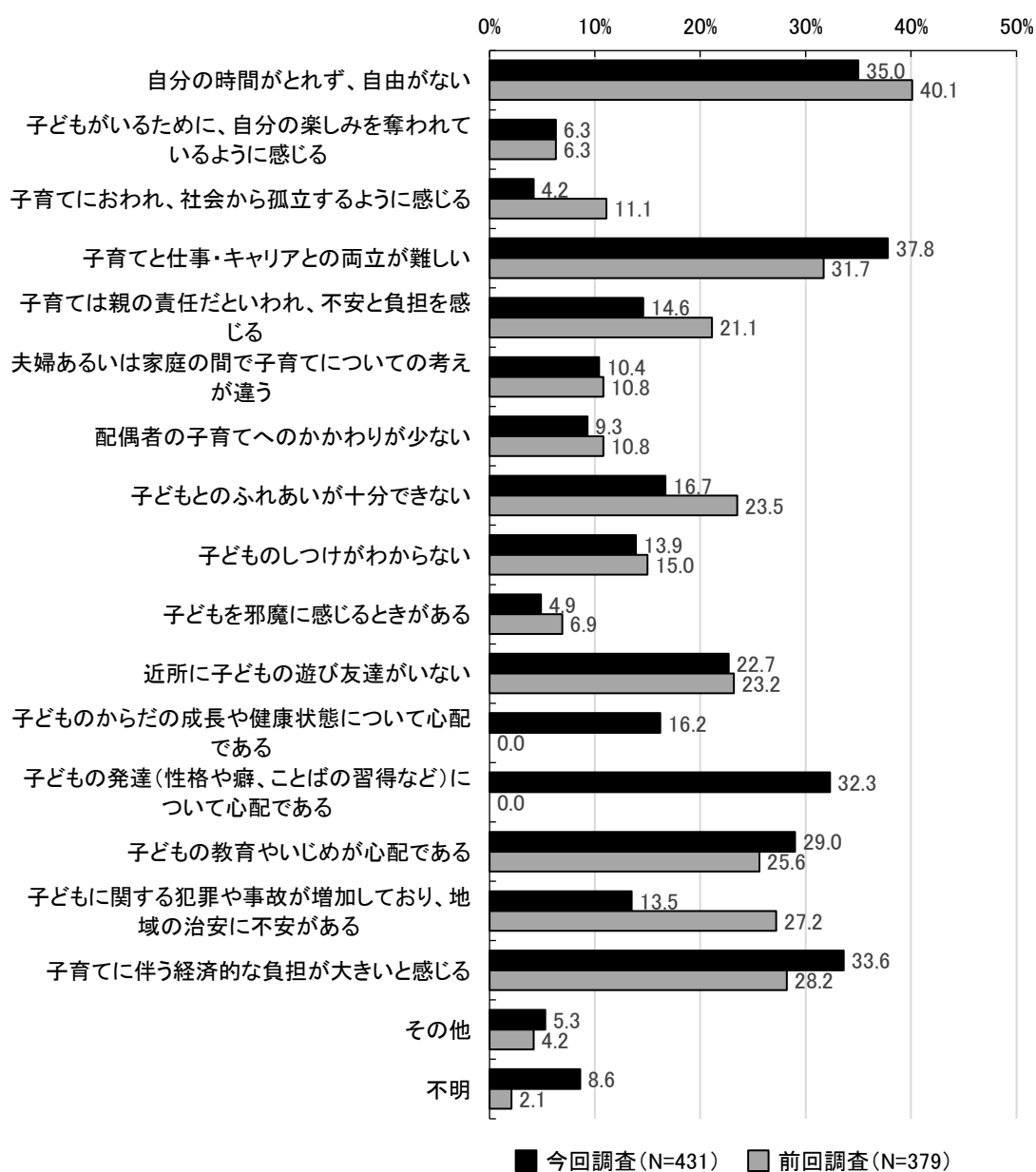
グラフ6. 育休を取得していない理由（父親）



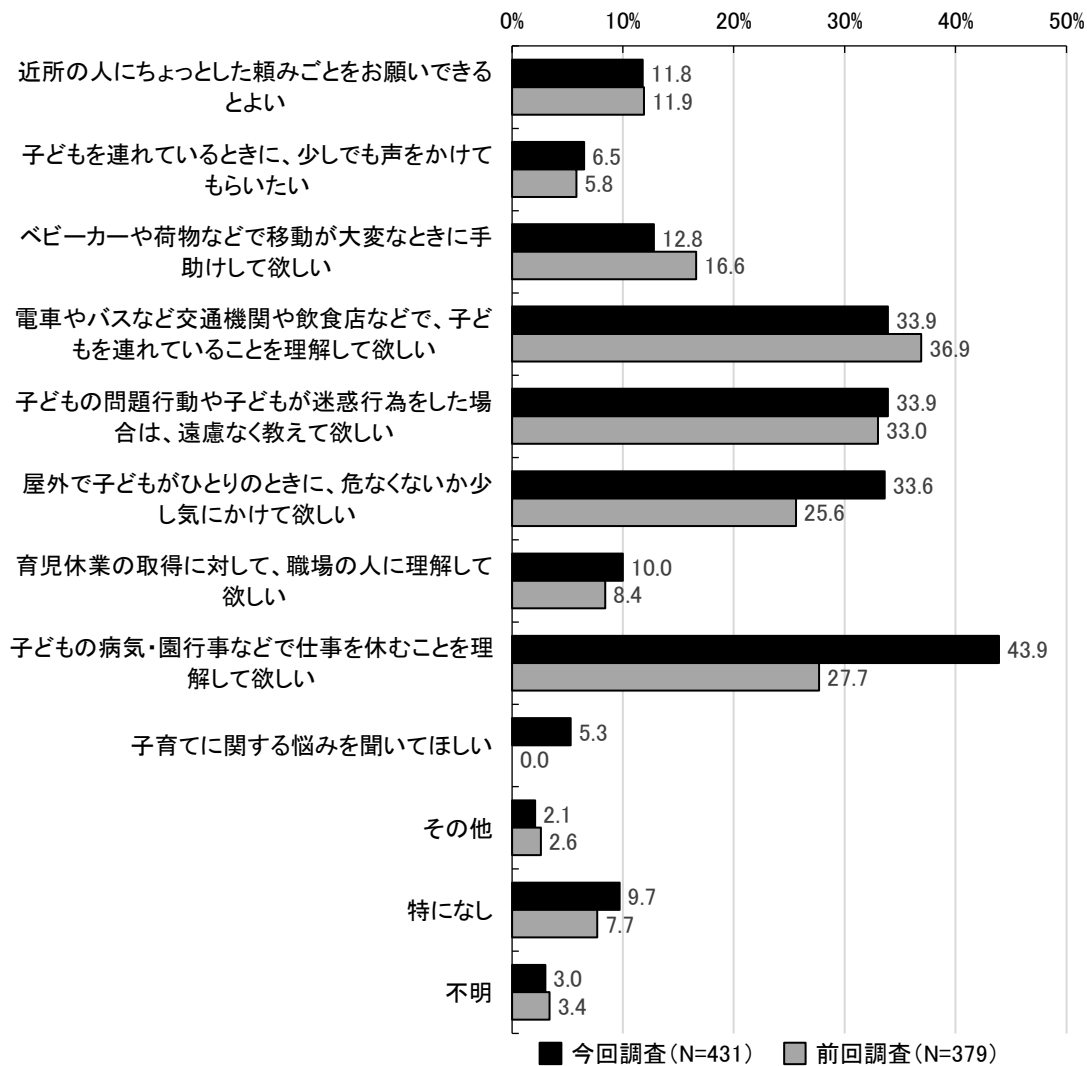
グラフ7. 育休を取得していない理由（母親）



グラフ8. 子育てをするうえでの不安や負担、悩み



グラフ9. 周囲の身近な人に求めるサポート



③子育てを支援するサービスについて

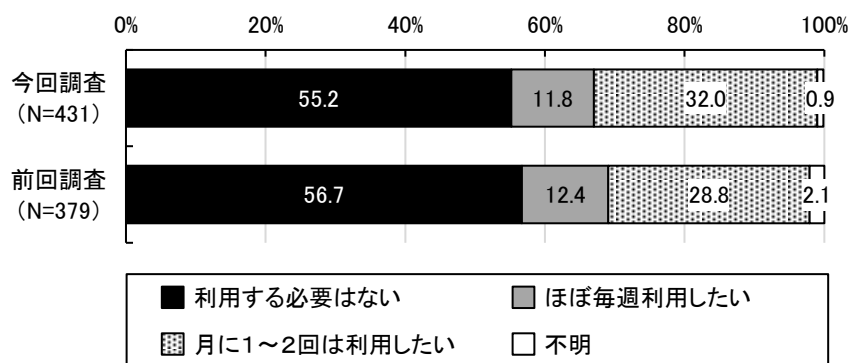
【調査結果のまとめ】

- 休日の定期的な教育・保育事業の利用希望（グラフ 10～13）について、【日曜日・祝日】において「月に1～2回は利用したい」が前回調査より7ポイント程度上昇しています。家庭類型の視点から見ると、保護者がともにフルタイムで働いている場合、【土曜日】【日曜日・祝日】ともに「月に1～2回は利用したい」が高くなっています。
- 病気やケガで事業が利用できなかった経験（グラフ 14、15）について、「あった」の回答割合は85.3%で、前回調査より16ポイント上昇しています。家庭類型の視点から見ると、保護者がともにフルタイムで働いている場合、「あった」の割合が9割以上と高くなっています。なお、その場合の対処方法（グラフ 16）については、保護者の一方が休んだと回答した割合が前回調査よりも高くなっています。
- 保護者が休んだ場合の病児・病後児保育の利用希望（グラフ 17）について、利用したいという回答割合は前回調査より上昇しており、特に病後児保育施設（回復期の子どもを預かる施設）の利用希望が15ポイント程度上昇しています。なお、利用したくない理由（グラフ 18）については、保護者が仕事を休んで対応できることや、他人に看てもらうことが不安であるという回答が高くなっています。
- 子育て支援センターの利用状況（グラフ 19～21）について、「利用している」は約24%で、前回調査より6ポイント程度上昇しています。年齢の視点から見ると、0～2歳において利用がみられるほか、家庭類型の視点から見ると、専業主婦（夫）のいる世帯において利用が多いことがうかがえます。また、利用意向についても前回調査より高く、特に低年齢の子どものいる世帯において利用意向が高くなっています。
- 小学校での放課後の過ごし方（グラフ 22、23）について、低学年では「学童保育」が最も高く、次いで「自宅」「習い事・スポーツクラブなど」が高くなっています。一方、高学年では「自宅」が最も高く、次いで「習い事・スポーツクラブなど」「学童保育」が高くなっています。なお、土曜日における学童保育の利用希望（グラフ 24）、日曜・祝日における学童保育の利用希望（グラフ 25）について、どちらの場合も「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が前回調査と比べて上昇しています。

【考察】

- ➡保育所（園）や幼稚園、認定こども園以外の事業の利用意向は高まっています。（2）仕事と子育ての両立についてでもふれた通り、子どものために仕事を休んだり調整することが難しい雰囲気が残る現状が、休日や緊急時におけるサービス利用の意向が高まっている背景にあると考えられます。子育て支援センターの利用意向の高まりや、高学年での学童保育の利用希望なども含め、公的なサービスによる子育て支援を求める意見が高まっており、人材確保・育成についても視野に入れながら、ニーズに対応できる体制を整えていくことが求められます。

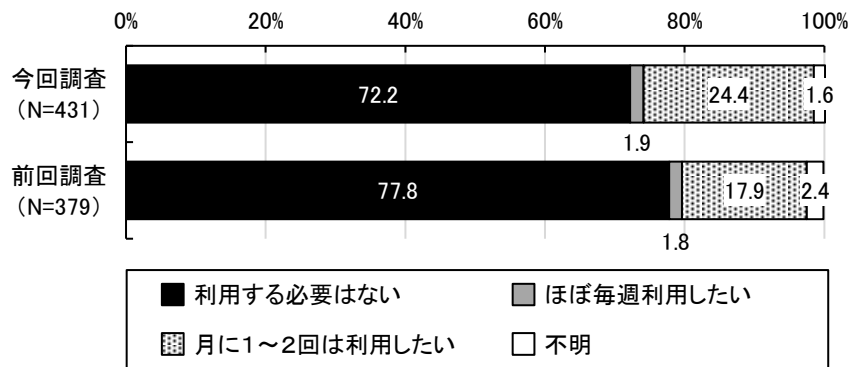
グラフ10. 休日の定期的な教育・保育事業の利用希望（土曜日）



グラフ11. 休日の定期的な教育・保育事業の利用希望（土曜日、家庭類型別）

		利用する必要はない	ほぼ毎週利用したい	月に1～2回は利用したい	不明
家庭類型	ひとり親 (N=48)	58.3	16.7	25.0	0.0
	フルタイム×フルタイム (N=180)	46.7	14.4	38.3	0.6
	フルタイム×パートタイム(長時間) (N=61)	52.5	14.8	31.1	1.6
	フルタイム×パートタイム(短時間) (N=33)	72.7	9.1	18.2	0.0
	専業主婦(夫) (N=108)	64.8	4.6	28.7	1.9
	パートタイム(長時間)×パートタイム(長時間) (N=1)	0.0	0.0	100.0	0.0
	パートタイム(長時間)×パートタイム(短時間) (N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0
	無業×無業 (N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0

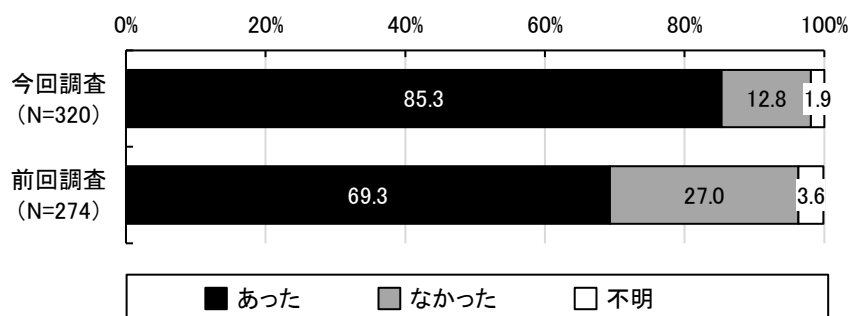
グラフ12. 休日の定期的な教育・保育事業の利用希望（日曜日・祝日）



グラフ13. 休日の定期的な教育・保育事業の利用希望（日曜日・祝日、家庭類型別）

		利用する必要はない	ほぼ毎週利用したい	月に1～2回は利用したい	不明
家庭類型	ひとり親 (N=48)	68.8	2.1	27.1	2.1
	フルタイム×フルタイム (N=180)	66.1	1.7	30.6	1.7
	フルタイム×パートタイム(長時間) (N=61)	77.0	0.0	21.3	1.6
	フルタイム×パートタイム(短時間) (N=33)	84.8	3.0	12.1	0.0
	専業主婦(夫) (N=108)	76.9	2.8	18.5	1.9
	パートタイム(長時間)×パートタイム(長時間) (N=1)	100.0	0.0	0.0	0.0
	パートタイム(長時間)×パートタイム(短時間) (N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0
	無業×無業 (N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0

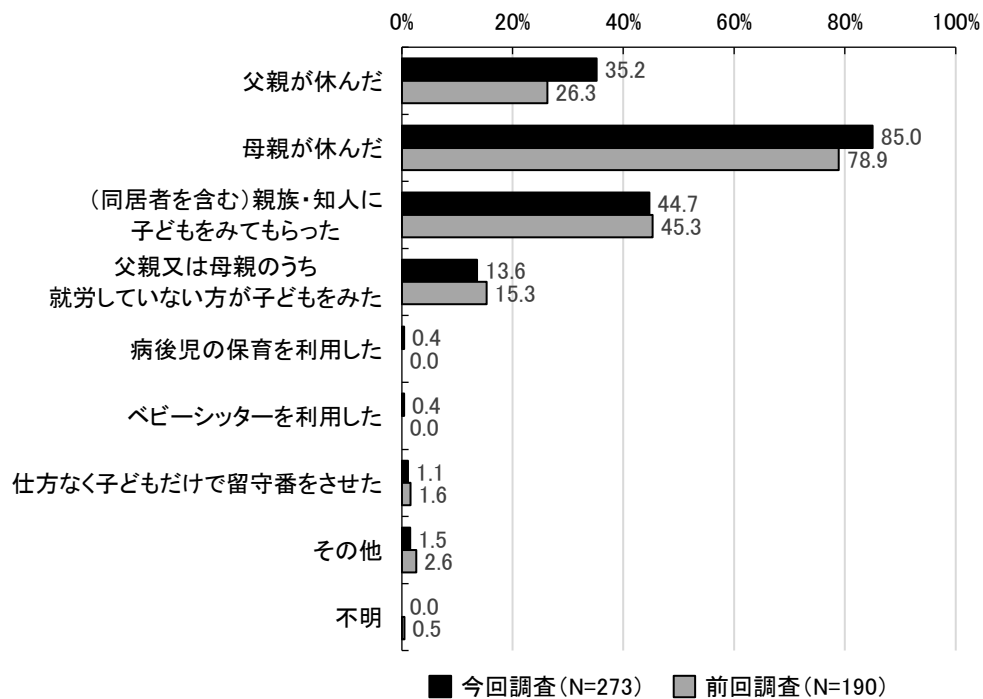
グラフ14. 病気やケガで事業が利用できなかった経験



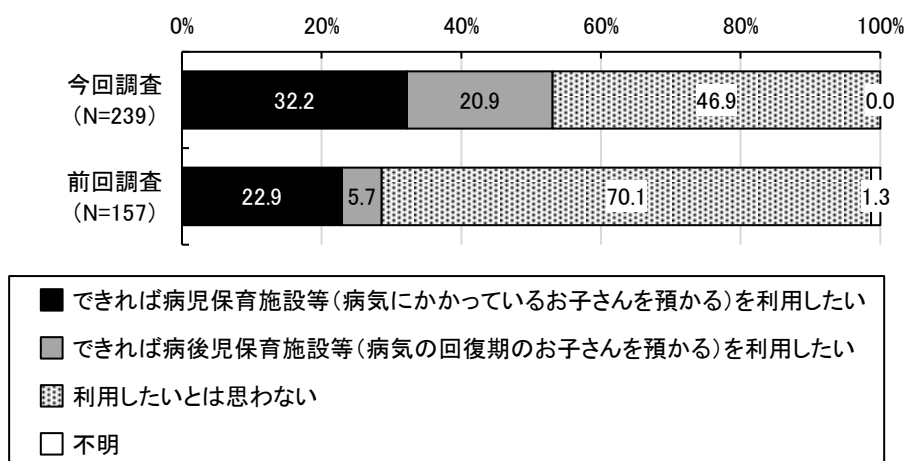
グラフ15. 病気やケガで事業が利用できなかった経験（家庭類型別）

		あった	なかった	不明
家庭類型	ひとり親 (N=37)	78.4	21.6	0.0
	フルタイム×フルタイム (N=145)	94.5	4.1	1.4
	フルタイム×パートタイム(長時間) (N=57)	87.7	10.5	1.8
	フルタイム×パートタイム(短時間) (N=26)	84.6	15.4	0.0
	専業主婦(夫) (N=54)	63.0	31.5	5.6
	パートタイム(長時間)×パートタイム(長時間) (N=1)	100.0	0.0	0.0
	パートタイム(長時間)×パートタイム(短時間) (N=0)	0.0	0.0	0.0
	無業×無業 (N=0)	0.0	0.0	0.0

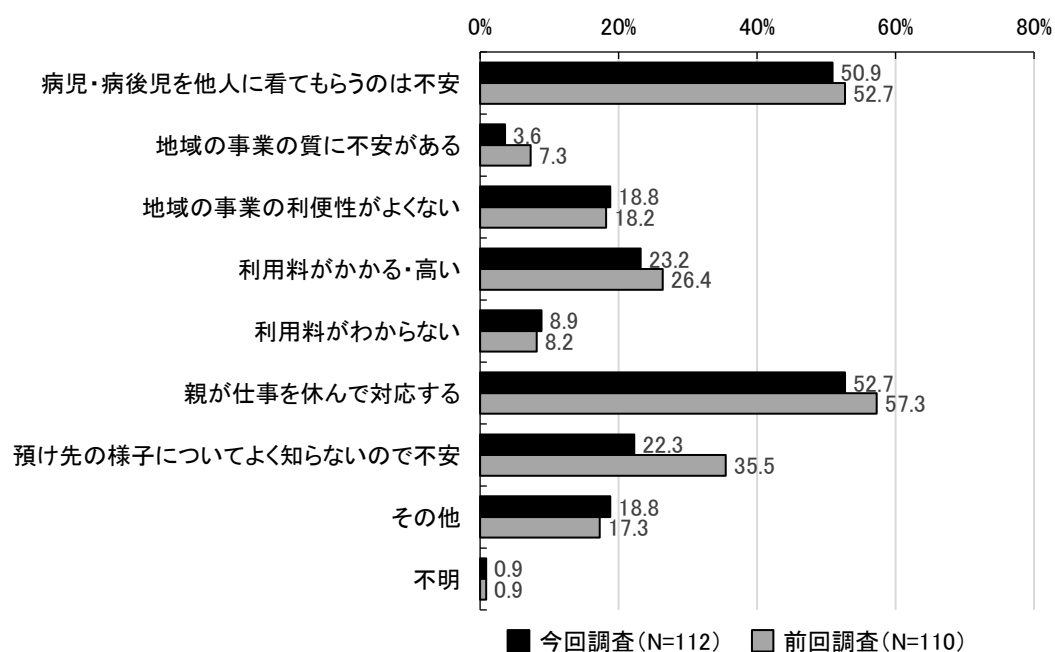
グラフ16. その場合の対処方法



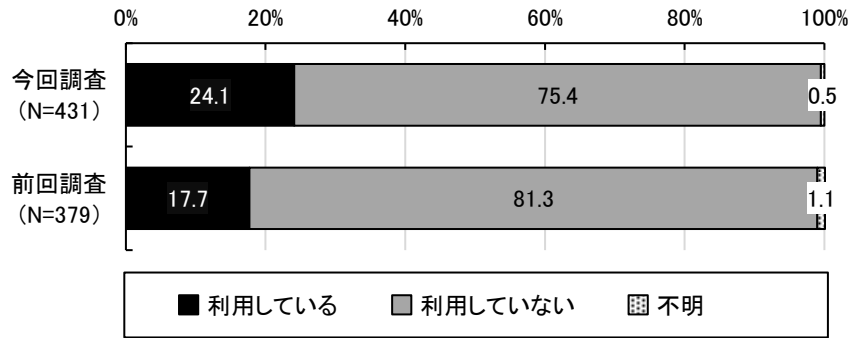
グラフ17. 保護者が休んだ場合の病児・病後児保育の利用希望



グラフ18. 利用したくない理由



グラフ19. 子育て支援センターの利用状況



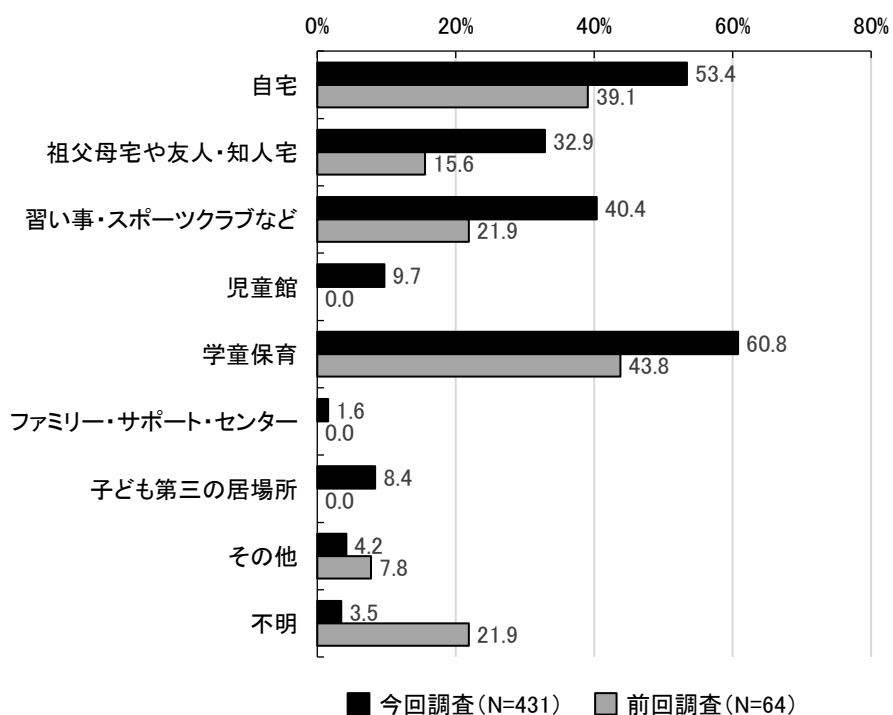
グラフ20. 子育て支援センターの利用状況（子どもの年齢別）

		利用して いる	利用して いない	不明・無回 答
学 年 齢	0歳 (N=84)	44.0	56.0	0.0
	1歳 (N=46)	30.4	69.6	0.0
	2歳 (N=59)	27.1	72.9	0.0
	3歳 (N=63)	12.7	85.7	1.6
	4歳 (N=80)	13.8	86.3	0.0
	5歳 (N=82)	18.3	80.5	1.2

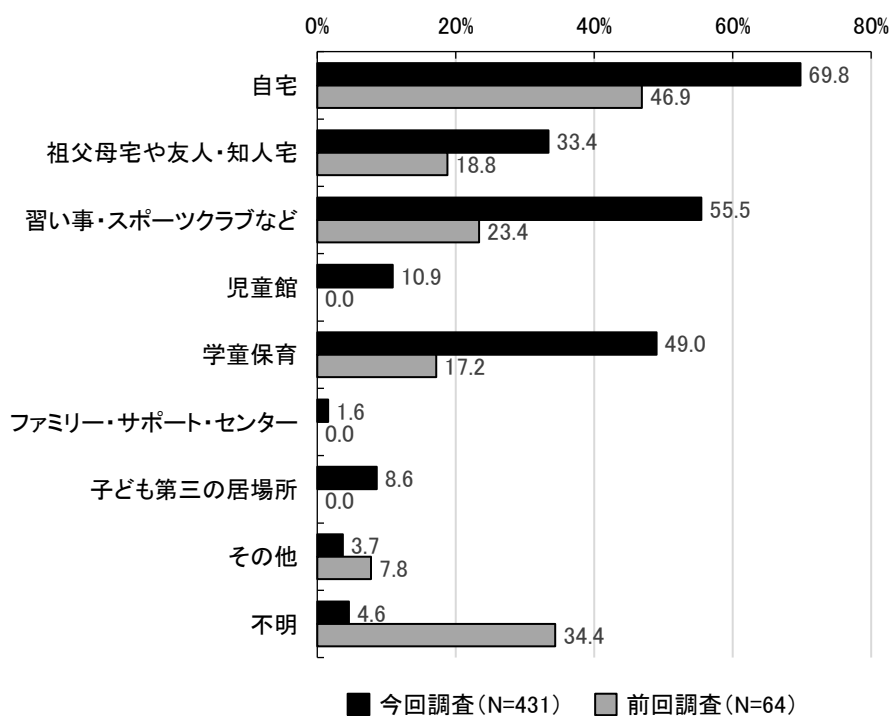
グラフ21. 子育て支援センターの利用状況（家庭類型別）

		利用して いる	利用して いない	不明・無回 答
家 庭 類 型	ひとり親 (N=48)	6.3	93.8	0.0
	フルタイム×フルタイム (N=180)	18.9	80.6	0.6
	フルタイム×パートタイム(長時間) (N=61)	18.0	80.3	1.6
	フルタイム×パートタイム(短時間) (N=33)	15.2	84.8	0.0
	専業主婦(夫) (N=108)	47.2	52.8	0.0
	パートタイム(長時間)×パートタイム(長時間) (N=1)	0.0	100.0	0.0
	パートタイム(長時間)×パートタイム(短時間) (N=0)	0.0	0.0	0.0
	無業×無業 (N=0)	0.0	0.0	0.0

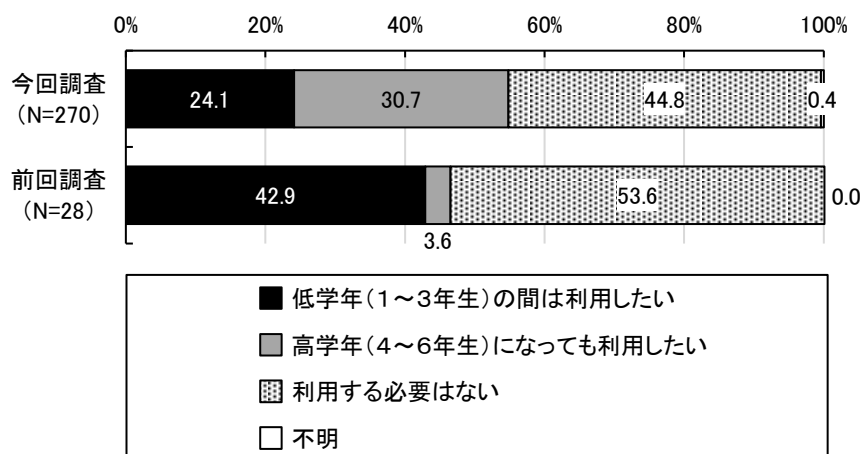
グラフ22. 小学校での放課後の過ごし方（低学年時）



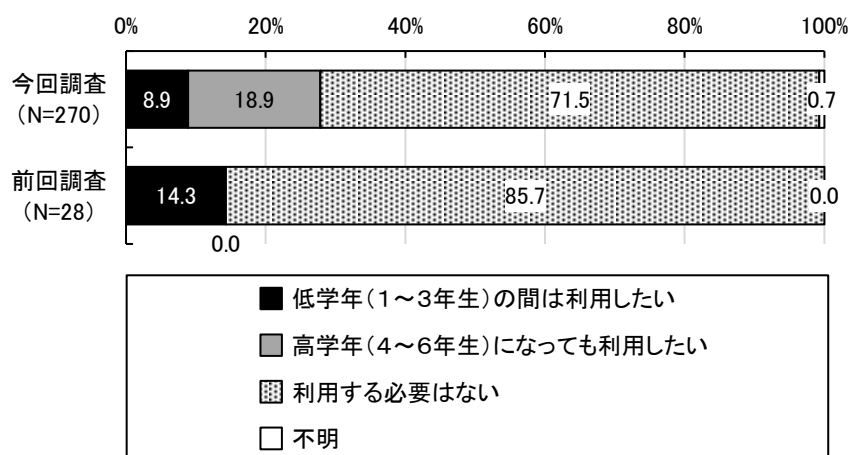
グラフ23. 小学校での放課後の過ごし方（高学年時）



グラフ24. 土曜日における学童保育の利用希望



グラフ25. 日曜・祝日における学童保育の利用希望



4. 小中学生対象調査結果の総括

①学校生活について

【調査結果のまとめ】

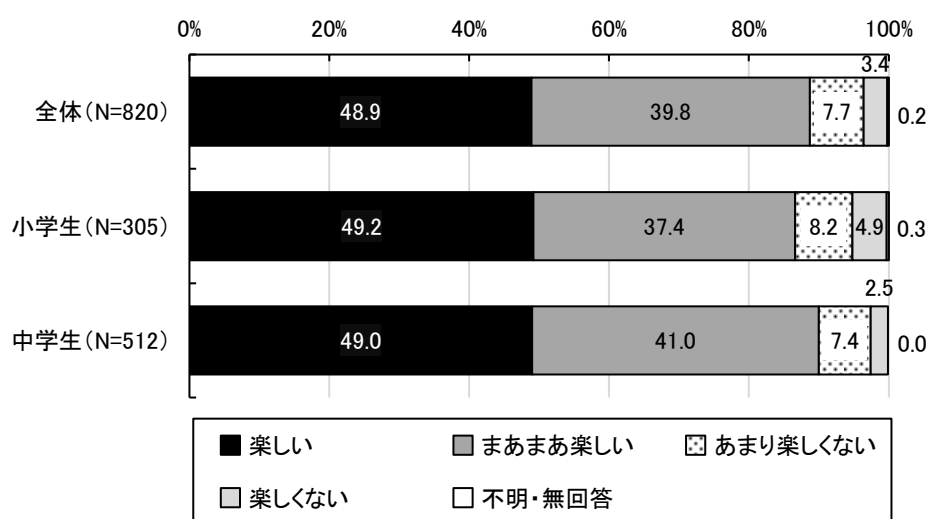
- 学校が楽しいかどうか（グラフ 26、27）については、小学生・中学生ともに全体の8割以上が『楽しいと感じる』（「楽しい」と「まあまあ楽しい」の合算）と回答しており、楽しいと感じる点については、「休み時間」や「友だちがいること」という回答の割合が高くなっています。一方で、自尊感情や授業理解の程度といった視点から分析すると、自尊感情や授業理解の程度が低くなるにつれ、学校を楽しいと感じる割合も低くなる傾向がみられます。
- 学校が楽しくないと感じる時（グラフ 28、29）については、「勉強したくない時」や「学校の中でやりたくないことが多い時」といった回答の割合が高くなっています。自尊感情の視点から分析すると、自尊感情が低い場合、特に友人関係や先生との関係についての回答割合が高くなる傾向がみられます。
- 平日の学習時間（グラフ 30）については、小学生の平均学習時間がおよそ 57 分、中学生の平均学習時間がおよそ 77 分となっていますが、「まったくしない」と回答した割合は、小学生がおよそ 10%、中学生がおよそ 7%となっています。
- 授業理解の程度（グラフ 31、32）については、小学生では8割強、中学生では8割弱の方が『わかる』（「よくわかる」と「だいたいわかる」の合算）と回答しています。授業理解の程度は学習時間とある程度の関係性がみられ、〈まったくしない〉では『わかる』の割合が6割弱であったのに対し、〈30分以上、1時間より少ない〉では8割強まで上昇しています。一方で、〈30分以上、1時間より少ない〉以降は、学習時間が増加しても『わかる』の回答割合に大きな変化はみられません。
- 授業がわからないときの対応（グラフ 33、34）については、小学生・中学生ともに「友だちに教えてもらう」の回答割合が高くなっているほか、小学生では「先生に質問して教えてもらう」、中学生では「家や塾で教えてもらう」「自分で調べたり、考える」の回答割合も高くなっています。なお、授業理解の程度の視点から分析すると、授業理解の程度が低くなるにつれ、だれかに教えてもらったり、自分で調べる行動をとる回答の割合が低くなる傾向がみられ、〈ほとんどわからない〉では「そのままにしておく」の回答割合が6割弱まで上昇しています。

【考察】

- ➡回答者の自尊感情や授業理解の程度が、学校を楽しいと思えるかどうかに影響していることが調査結果よりうかがえます。全体としては、休み時間を過ごすことや友だちと会えることが学校を楽しいと思える理由として多くみられますが、自尊感情が低くなると、特に授業や学校行事を楽しいと感じる回答者も少なくなる傾向がみられます。一方で、楽しくないと思う理由については、自尊感情が低い場合、授業が分からないことに加え、友だちや先生との関係に関して問題があるという回答が多くなっています。自尊感情が低い場合、同級生や先生と関わることのある機会を苦手と感じている傾向があることが予想されます。
- ➡学習時間から授業理解について分析すると、勉強をしない場合よりもしている場合の方が授業

理解の程度が高い一方、一定の学習時間（調査結果では 30 分程度）を超えると授業理解の高まりはみられないことより、学習時間の長短よりも、学習習慣の有無の方が授業理解との関連が強いと考えられます。また、授業理解の程度が低い場合、調べたり質問したりするなど、理解するための行動をとらない（とれない）傾向も調査結果よりうかがえます。授業理解の程度が学校に対する期待感に関連していること、また、学歴と収入に関連があり、将来にわたって貧困が連鎖する可能性がある点が子どもの貧困に関する研究で指摘されていることなどを踏まえると、学習習慣の定着に向けた支援や、児童・生徒の学習進度や個性に合わせてきめ細やかにサポートする「個別最適な学び」の推進が一層求められます。

グラフ26. 学校が楽しいかどうか

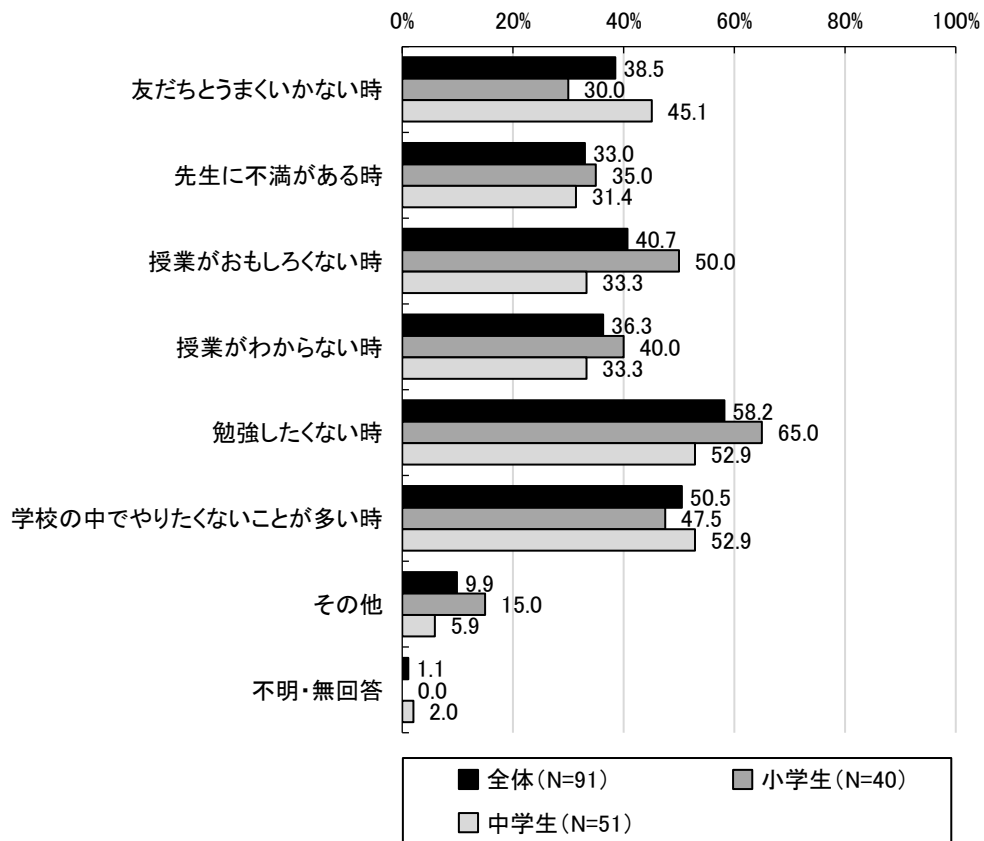


グラフ27. 学校が楽しいかどうか（自尊感情・授業理解別）

		N	楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しくない	楽しくない	不明・無回答
自尊感情	自尊感情：高	410	62.2	32.9	2.9	1.7	0.2
	自尊感情：中	350	38.0	46.0	11.4	4.3	0.3
	自尊感情：低	52	11.5	55.8	21.2	11.5	0.0

		N	楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しくない	楽しくない	不明・無回答
授業理解	わかる	651	54.4	38.2	4.9	2.3	0.2
	どちらともいえない	108	31.5	48.1	16.7	3.7	0.0
	わからない	54	18.5	40.7	24.1	16.7	0.0

グラフ28. 学校が楽しくないと感じる時

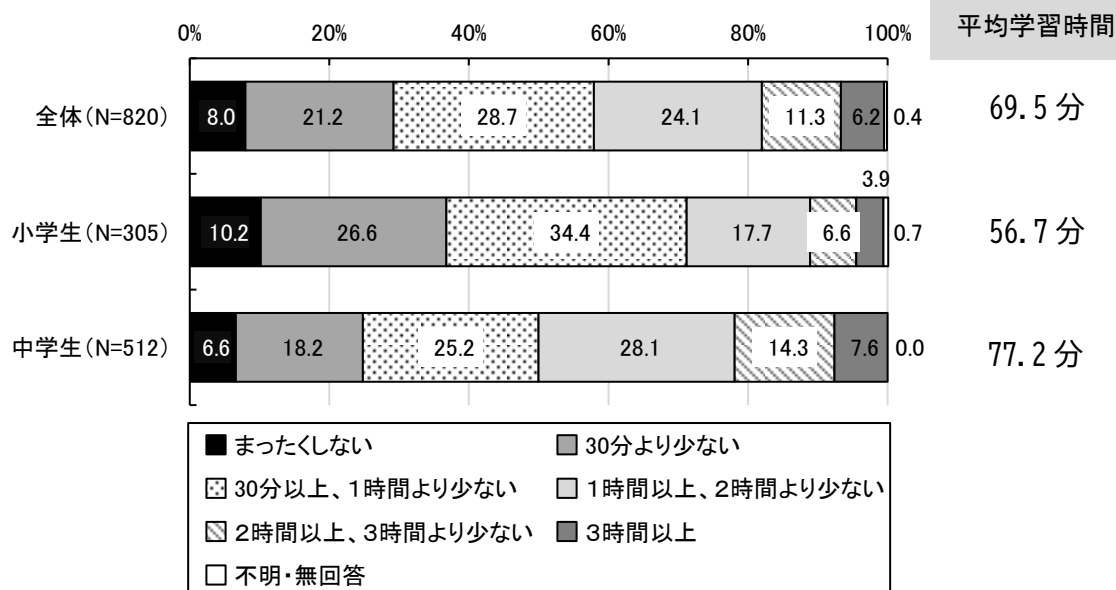


グラフ29. 学校が楽しくないと感じる時（自尊感情別）

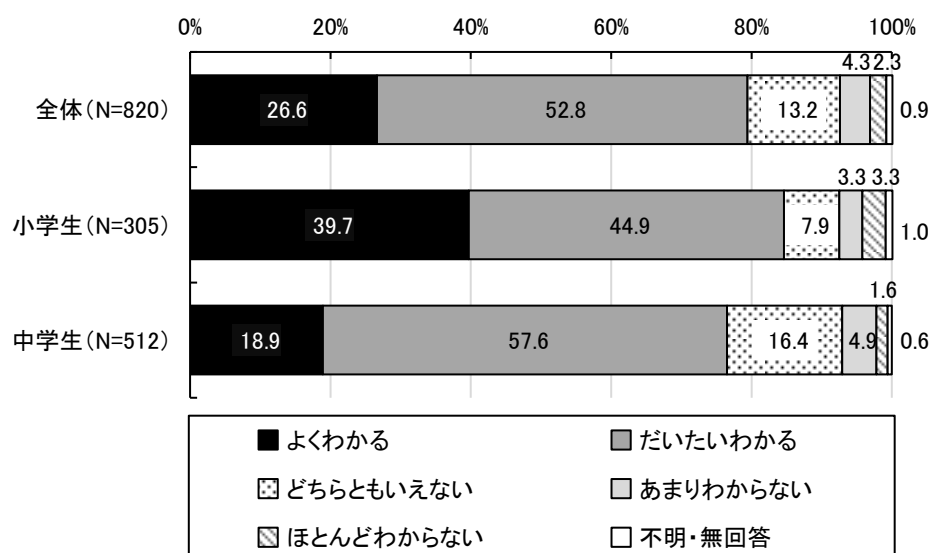
		N	友だちとうまくいかない時	先生に不満がある時	授業がおもしろくない時	授業がわからない時
自尊感情	自尊感情：高	19	21.1	31.6	47.4	47.4
	自尊感情：中	55	40.0	30.9	40.0	29.1
	自尊感情：低	17	52.9	41.2	35.3	47.1

		N	勉強したくない時	学校の中でやりたくないことが多い時	その他	不明・無回答
自尊感情	自尊感情：高	19	73.7	52.6	10.5	0.0
	自尊感情：中	55	56.4	47.3	10.9	1.8
	自尊感情：低	17	47.1	58.8	5.9	0.0

グラフ30. 平日の学習時間



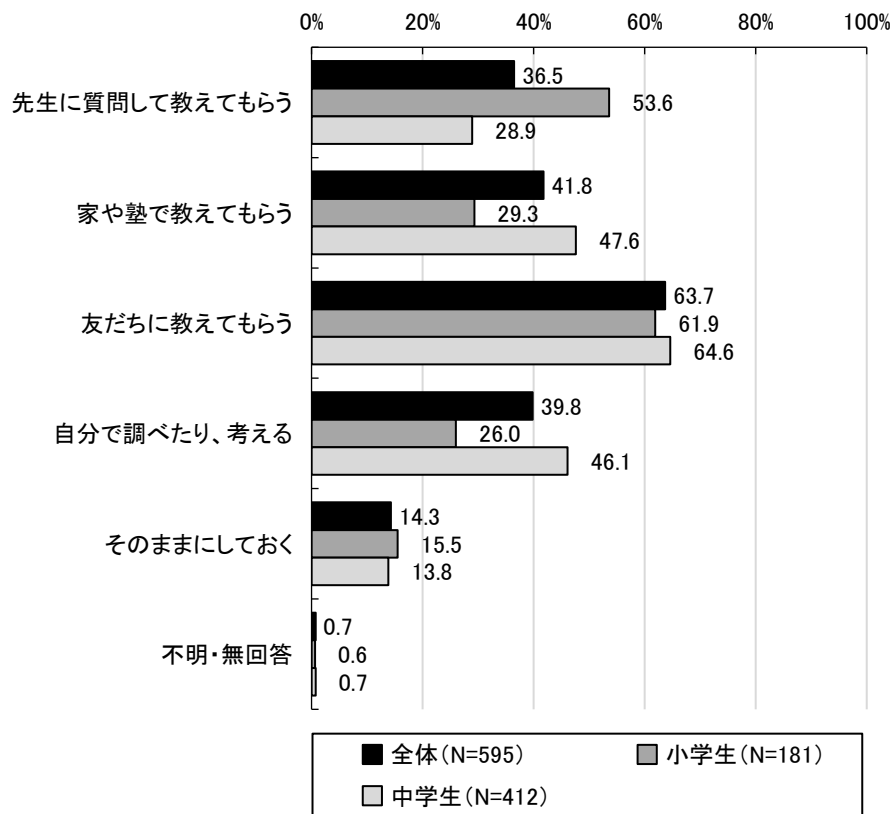
グラフ31. 授業理解の程度



グラフ32. 授業理解の程度（学習時間別）

		N	わかる	どちらともいえない	わからない	不明・無回答
学習時間	まったくしない	66	59.1	15.2	25.8	0.0
	30分より少ない	174	71.8	17.2	9.8	1.1
	30分以上、1時間より少ない	235	83.0	13.2	3.8	0.0
	1時間以上、2時間より少ない	198	85.9	10.1	2.5	1.5
	2時間以上、3時間より少ない	93	84.9	9.7	4.3	1.1
	3時間以上	51	82.4	13.7	3.9	0.0

グラフ33. 授業がわからないときの対応



グラフ34. 授業がわからないときの対応（授業理解別）

		N	先生に質問して教えてもらう	家や塾で教えてもらう	友だちに教えてもらう	自分で調べたり、考える	そのままにしておく	不明・無回答
授業理解	だいたいわかる	433	40.9	44.6	67.4	45.0	9.5	0.5
	どちらともいえない	108	25.9	39.8	59.3	29.6	23.1	0.9
	あまりわからない	35	25.7	31.4	54.3	22.9	22.9	2.9
	ほとんどわからない	19	15.8	10.5	21.1	10.5	57.9	0.0

②子どもの居場所について

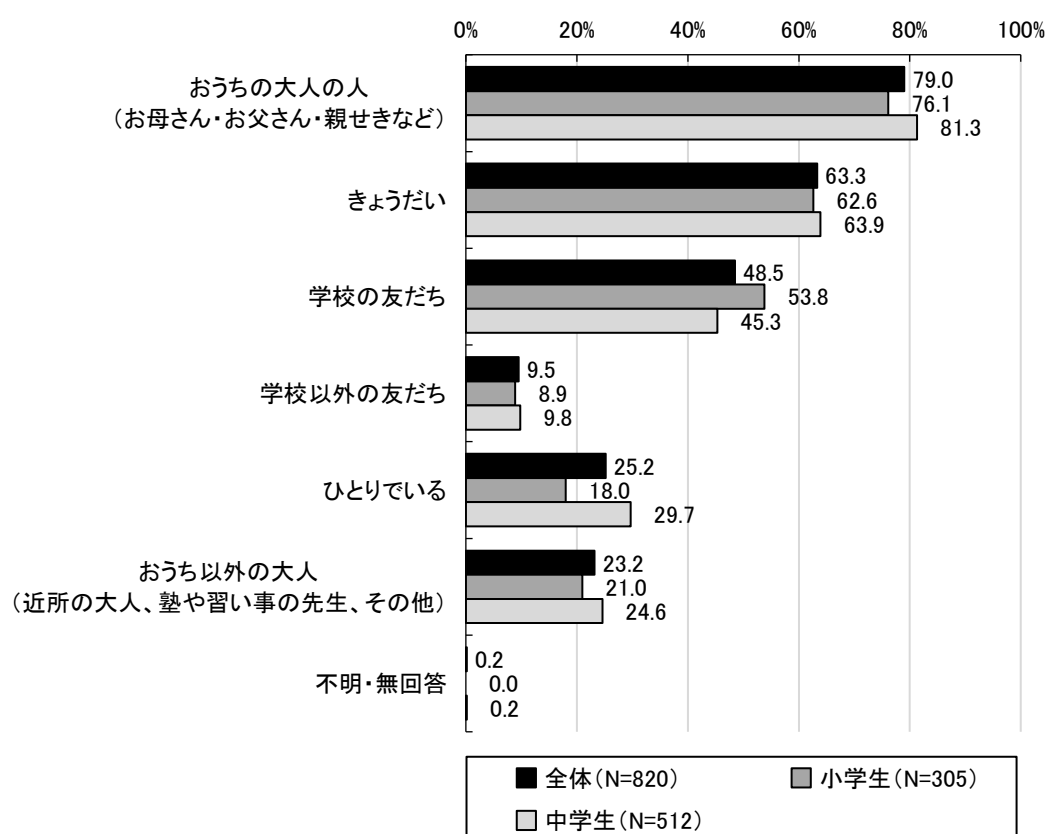
【調査結果のまとめ】

- 平日の放課後に一緒に過ごす人（グラフ 35、36）は、全体では保護者やきょうだいなど、家族と過ごすという回答の割合が高くなっています。自尊感情の視点から分析すると、自尊感情が低い場合、誰かと過ごすことが少なく、一人で過ごすことが多くなる傾向がみられます。
- 平日の放課後に過ごす場所（グラフ 37、38）は、全体では9割以上の方が「自分の家」と回答しています。自尊感情の視点から分析すると、自尊感情が低い場合、習い事や部活動などをしてしていると回答する割合が他の場合と比べて低くなっています。
- ほっとできる場所の有無（グラフ 39、40）については、全体では9割以上の方が「ある」と回答しています。自尊感情の視点から分析すると、自尊感情が低い場合、「ない」の回答が他の場合と比べて高くなっています。また、一番ほっとできる場所（グラフ 41、42）については、全体では「自分の部屋」や「家族と一緒に過ごす部屋」の回答割合が高くなっていますが、こちらも自尊感情の視点から分析すると、自尊感情が低い場合、「家族と一緒に過ごす部屋」の回答割合が低く、「自分の部屋」や「オンライン空間」の回答割合が高くなる傾向がみられます。
- 一番ほっとできる場所を選んだ理由（グラフ 43、44）については、〈自分の部屋〉の場合は「ひとりで過ごせる」、〈家族と一緒に過ごす部屋〉の場合は「安心して過ごせる」や「話を聞いてくれたり、一緒に遊んでくれる人がいる」、〈オンライン空間〉の場合は「ありのままでいられる、自分を否定されない」や「友だちと一緒に過ごせる」、「色んな人と出会える」の回答割合が他の場合と比べて高くなっています。

【考察】

- ➡放課後の過ごし方やほっとできる場所については、自尊感情によって違いがみられ、自尊感情が高い場合には、友人と遊んだり、自宅以外の場所で過ごす傾向が、自尊感情が低い場合には、家族、あるいはひとりで、主に自宅やオンライン空間で過ごす傾向がみられます。オンライン空間を選択した回答者の場合、ほっとできる理由として、ありのままの自分を認めてくれることを選択する傾向が見られることを踏まえると、気軽に利用でき、安心して自分らしく過ごすことのできる居場所を提供していくことが、子どもの自尊感情の向上や人間関係の構築につながる可能性が考えられます。

グラフ35. 平日の放課後に一緒に過ごす人

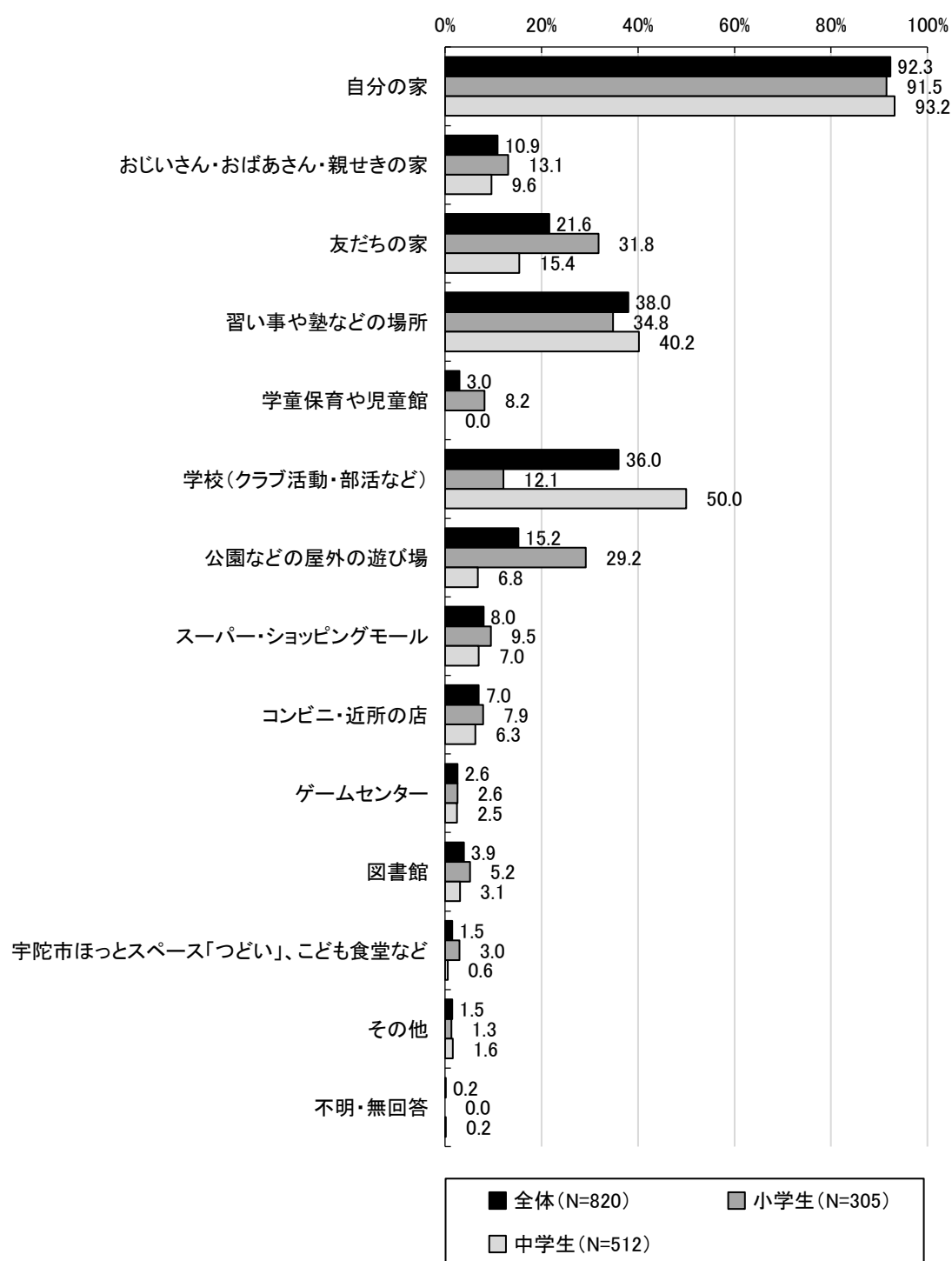


グラフ36. 平日の放課後に一緒に過ごす人（自尊感情別）

		N	うちの大人の人 (お母さん・お父さん・親せきなど)	きょうだい	学校の友だち	学校以外の友だち
自尊感情	自尊感情：高	410	81.0	64.6	49.8	9.8
	自尊感情：中	350	78.9	64.3	50.6	9.7
	自尊感情：低	52	65.4	50.0	28.8	5.8

		N	ひとり	うち以外の大人 (近所の大人、塾や習い事の先生、その他)	不明・無回答
自尊感情	自尊感情：高	410	21.5	25.9	0.5
	自尊感情：中	350	28.6	22.3	0.0
	自尊感情：低	52	30.8	11.5	0.0

グラフ37. 平日の放課後に過ごす場所



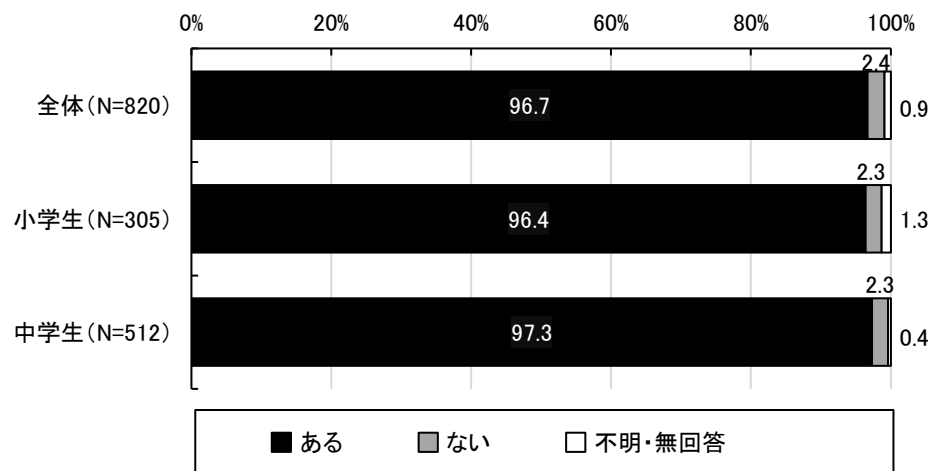
グラフ38. 平日の放課後に過ごす場所（自尊感情別）

		N	自分の家	おじいさん・おばあさん・親せきの家	友だちの家	習い事や塾などの場所	学童保育や児童館
自尊感情	自尊感情：高	410	91.2	12.4	23.4	41.2	3.4
	自尊感情：中	350	93.1	9.1	20.0	36.6	2.9
	自尊感情：低	52	96.2	11.5	21.2	25.0	1.9

		N	学校（クラブ活動・部活など）	公園などの屋外の遊び場	スーパー・ショッピングモール	コンビニ・近所の店	ゲームセンター
自尊感情	自尊感情：高	410	38.0	18.5	7.8	6.8	2.0
	自尊感情：中	350	35.4	13.4	8.9	7.1	3.1
	自尊感情：低	52	26.9	3.8	5.8	5.8	3.8

		N	図書館	宇陀市ほっとスペース「つどい」、こども食堂など	その他	不明・無回答
自尊感情	自尊感情：高	410	4.9	2.2	1.2	0.2
	自尊感情：中	350	3.1	0.9	1.7	0.0
	自尊感情：低	52	1.9	0.0	1.9	0.0

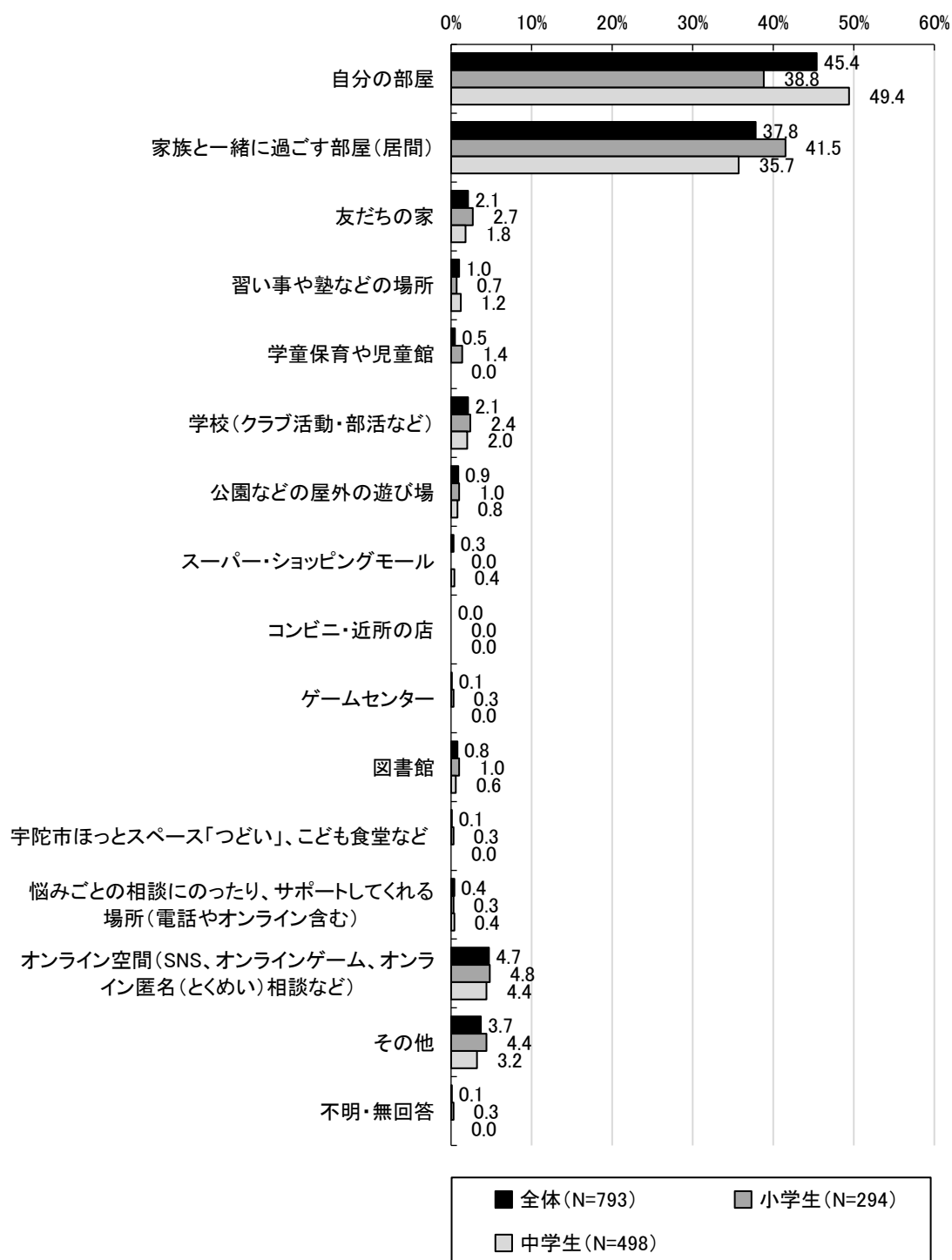
グラフ39. ほととできる場所の有無



グラフ40. ほととできる場所の有無（自尊感情別）

		N	ある	ない	不明・無回答
自尊感情	自尊感情：高	410	98.8	1.0	0.2
	自尊感情：中	350	95.7	2.9	1.4
	自尊感情：低	52	88.5	11.5	0.0

グラフ41. 一番ほっとできる場所



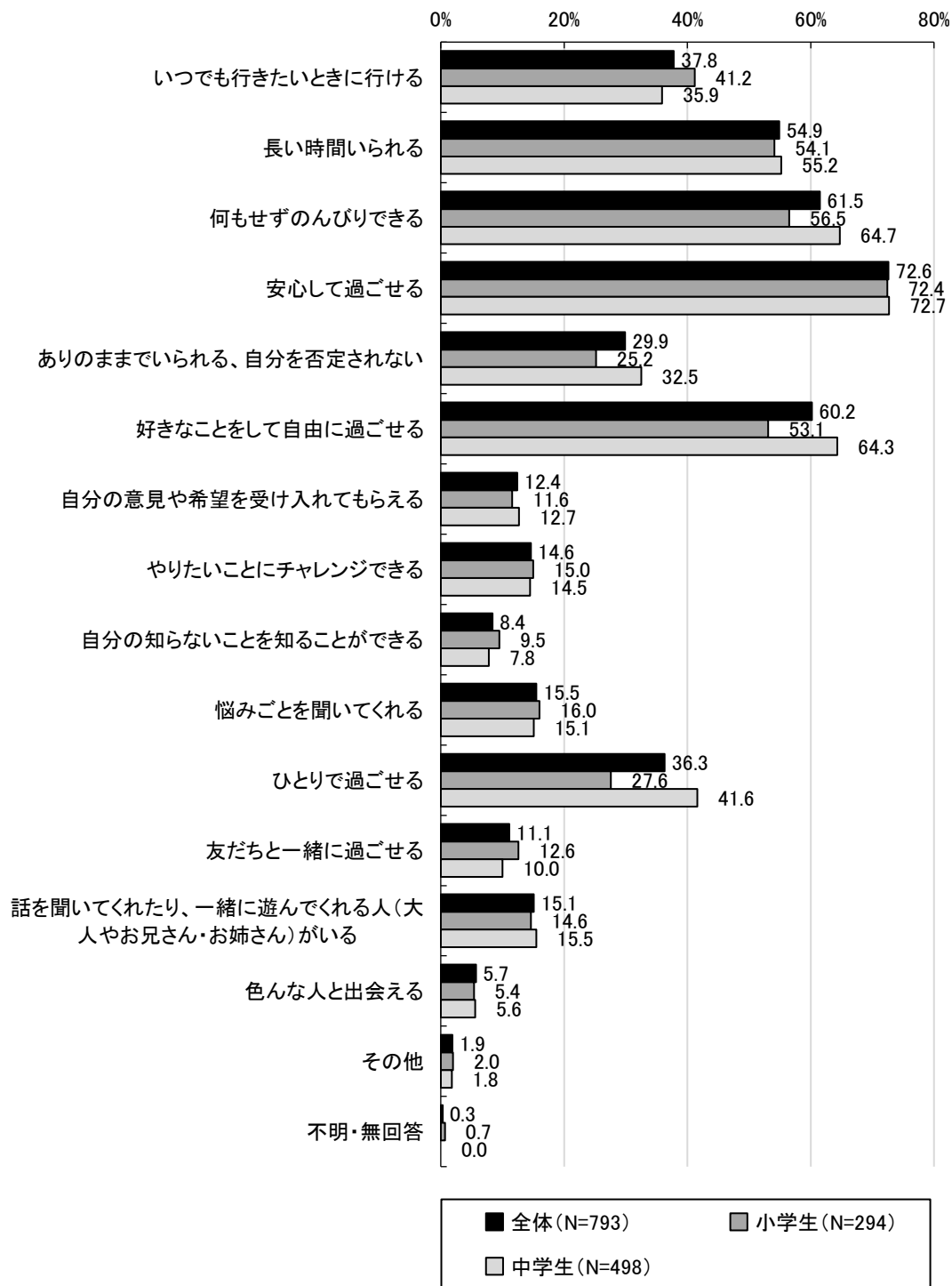
グラフ42. 一番ほっとできる場所（自尊感情別）

		N	自分の部屋	家族と一緒に過ごす部屋（居間）	友だちの家	習い事や塾などの場所	学童保育や児童館	学校（クラブ活動・部活など）
自尊感情	自尊感情：高	405	 41.0	 43.7	 2.2	 1.2	 1.0	 2.7
	自尊感情：中	335	 48.4	 34.9	 1.8	 0.3	 0.0	 1.8
	自尊感情：低	46	 63.0	 6.5	 4.3	 2.2	 0.0	 0.0

		N	公園などの屋外の遊び場	スーパー・ショッピングモール	コンビニ・近所の店	ゲームセンター	図書館
自尊感情	自尊感情：高	405	 1.0	 0.5	 0.0	 0.2	 0.2
	自尊感情：中	335	 0.9	 0.0	 0.0	 0.0	 0.9
	自尊感情：低	46	 0.0	 0.0	 0.0	 0.0	 4.3

		N	宇陀市ほっとスペース「つとひ」、こども食堂など	悩みごとの相談にのったり、サポートしてくれる場所	オンライン空間（SNS、オンラインゲーム、オンライン匿名相談など）	その他	不明・無回答
自尊感情	自尊感情：高	405	 0.2	 0.0	 3.0	 3.0	 0.0
	自尊感情：中	335	 0.0	 0.9	 5.4	 4.5	 0.3
	自尊感情：低	46	 0.0	 0.0	 15.2	 4.3	 0.0

グラフ43. 一番ほっとできる場所を選んだ理由



グラフ44. 一番ほっとできる場所を選んだ理由（自尊感情別）

		N	いつでも行きたいときに行ける	長い時間いられる	何もせずのんびりできる	安心して過ごせる	ありのままにいられる、自分を否定されない	好きなことをして自由に過ごせる
ほっとできる場所	自分の部屋	360	39.2	53.9	70.0	68.6	26.7	66.7
	家族と一緒に過ごす部屋	300	36.7	60.3	64.3	87.3	34.7	58.7
	オンライン空間	37	51.4	48.6	29.7	40.5	45.9	70.3

		N	自分の意見や希望を受け入れてもらえる	やりたいことにチャレンジできる	自分の知らないことを知ることができる	悩みごとを聞いてくれる	ひとりで過ごせる
ほっとできる場所	自分の部屋	360	4.2	11.1	4.2	2.5	58.1
	家族と一緒に過ごす部屋	300	20.7	17.7	12.3	29.3	14.3
	オンライン空間	37	24.3	18.9	16.2	29.7	37.8

		N	友だちと一緒に過ごせる	話を聞いてくれたり、一緒に遊んでくれる人がいる	色々な人と出会える	その他	不明・無回答
ほっとできる場所	自分の部屋	360	5.8	3.9	1.1	0.6	0.0
	家族と一緒に過ごす部屋	300	5.3	29.3	2.3	1.3	0.3
	オンライン空間	37	35.1	16.2	54.1	0.0	0.0

③家族のお世話について

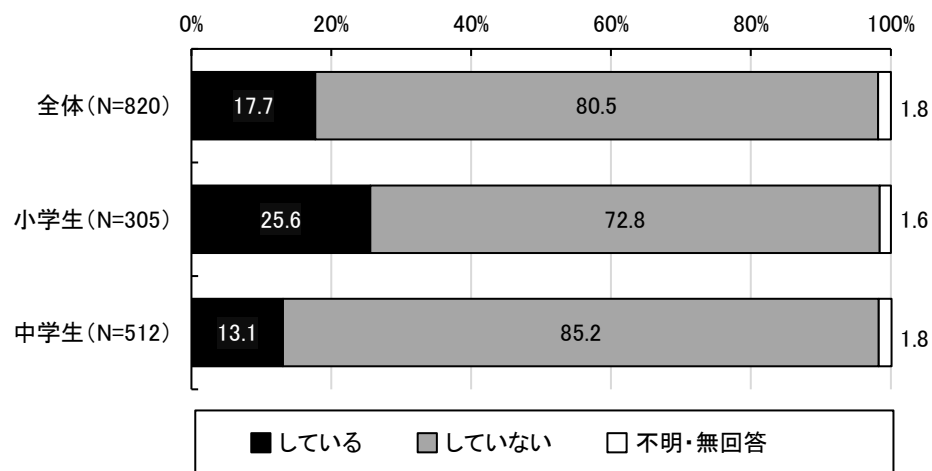
【調査結果のまとめ】

- お世話をしている家族がいるか（グラフ 45）については、全体では2割弱の方が「している」と回答しており、お世話の対象（グラフ 46）としては「お母さん」や「きょうだい」の回答割合が高くなっています。また、お世話の内容（グラフ 47）については、「食事の準備・そうじ・洗たく」が特に高く、次いで「お風呂やトイレのお世話」「見守り」が高くなっています。
- お世話の日数（グラフ 48、49）については、全体では「ほぼ毎日」の回答割合が6割弱で特に高くなっており、お世話の内容から分析してみても、ほとんどのお世話において「ほぼ毎日」の回答割合が5割以上となっています。なお、お世話の時間（グラフ 50、51）については、全体では「1時間未満」の回答割合が5割強で高くなっていますが、〈食事の準備・そうじ・洗たく〉〈お風呂やトイレのお世話〉などにおいて「7時間以上」と回答した方も一定数みられます。
- 奈良県が令和3年度に実施した「ヤングケアラー等に関する実態調査」では、週3日以上、平日3時間以上のお世話をしている方について注目して分析しています。以上の条件を本調査に当てはめると、合計で25名（グラフ 52）となりました。該当者がしているお世話の内容（グラフ 53）については、「食事の準備・そうじ・洗たく」の回答割合が高くなっています。
- 現在の悩み（グラフ 54）について、長時間お世話をしているかどうかの視点から分析すると、〈該当〉の場合、「家のこと」や「友だちのこと」の回答割合が他の場合と比べて高くなっています。

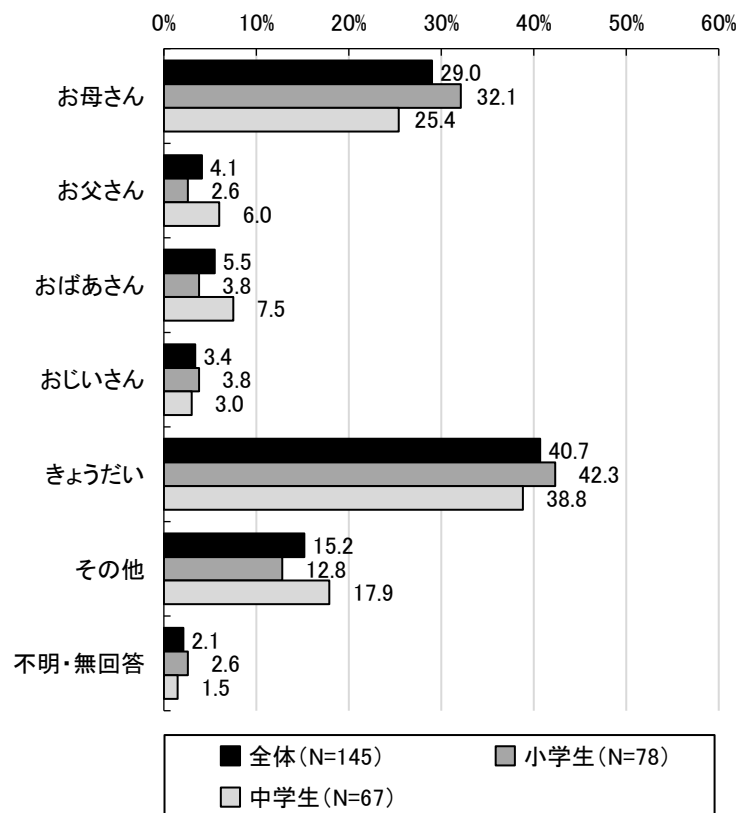
【考察】

- ➡家のお手伝いや家族のお世話に携わる時間が長時間になることで、学校生活や友だちとの関係性などに影響が出てしまう状態にある子ども（ヤングケアラー）の存在が近年問題になっています。本調査では、ヤングケアラーに該当する可能性のある回答者を、奈良県の調査分析における基準に基づいて抽出した結果、回答者820名のうち、25名（回答者全体の3.0%）が該当しました。これら該当者は、そうでない方と比べて家のことや友だちのことについて悩みを抱えている傾向がうかがえます。ヤングケアラーは当事者家族がその問題に気づきにくい点、発見した場合でも介入して支援することが難しい点が指摘されていることより、ヤングケアラーに関する情報の発信を通じて、問題についての認識を深めていくことを進める必要があります。また、該当する世帯は複合的な課題を抱えている可能性が高いため、子育て・福祉・教育など、様々な分野が一体となって包括的に支援する体制を充実させていくことも求められます。

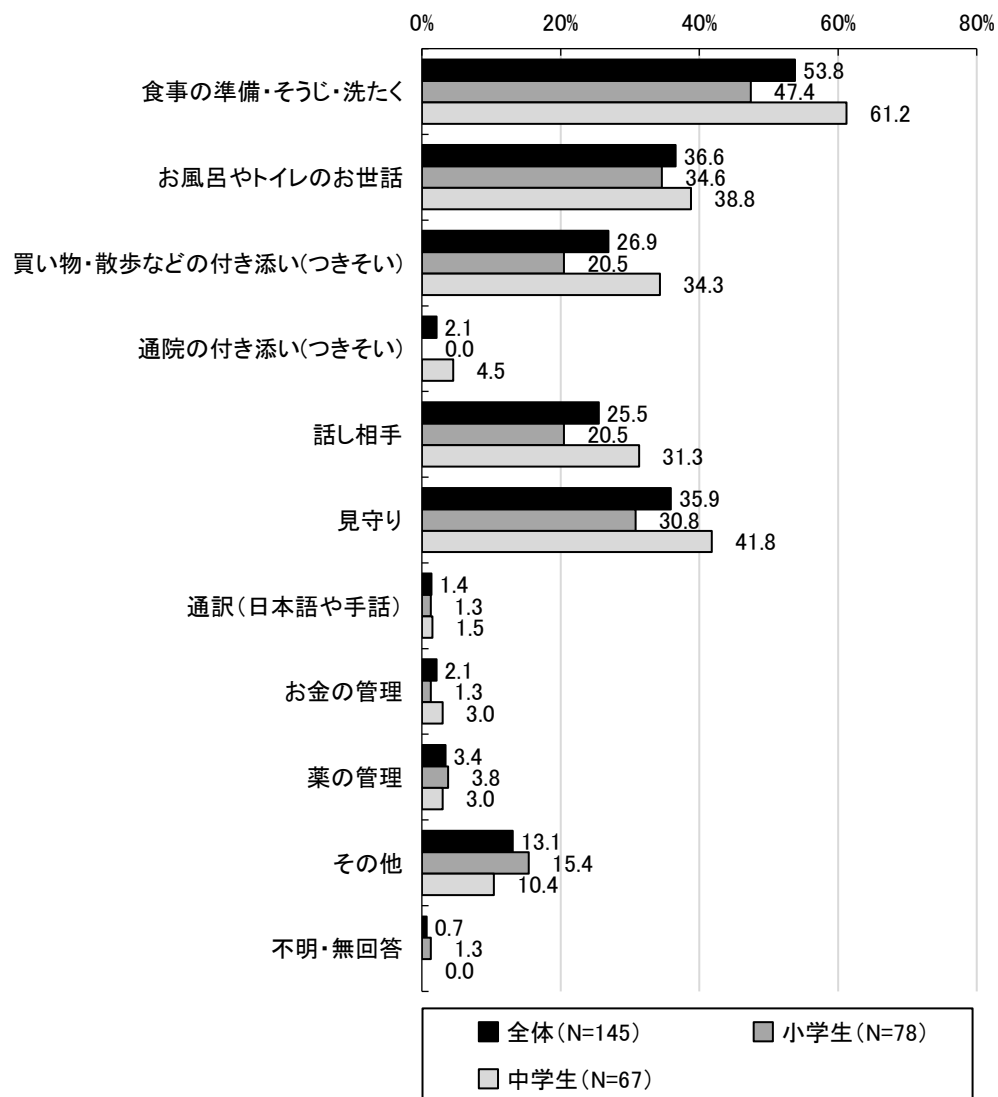
グラフ45. お世話をしている家族がいるか



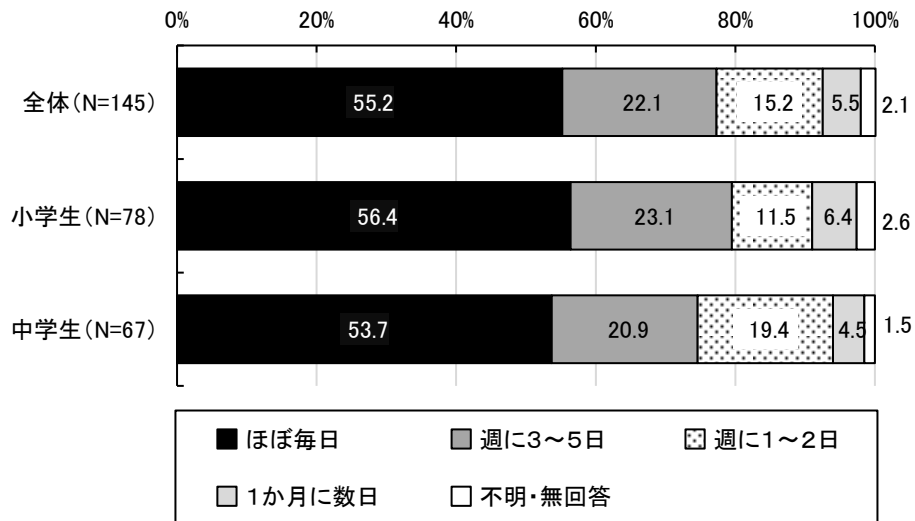
グラフ46. お世話の対象



グラフ47.お世話の内容



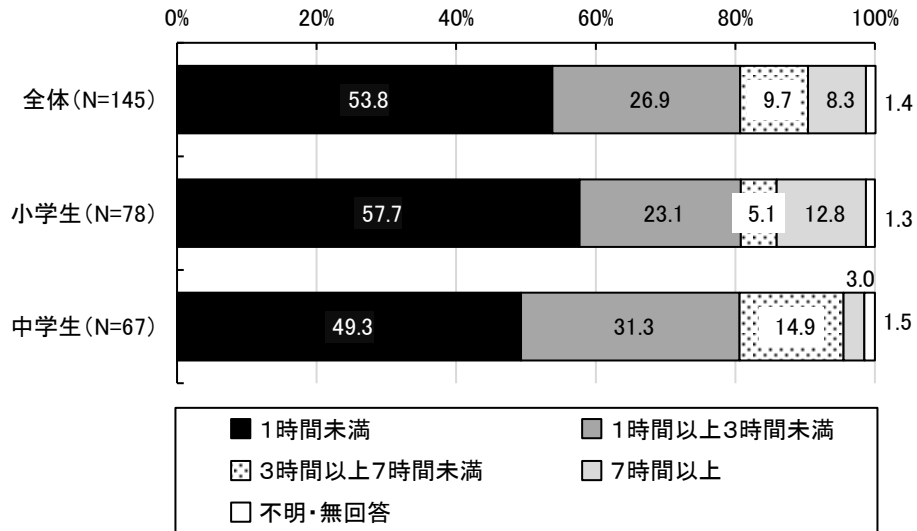
グラフ48. お世話の日数



グラフ49. お世話の日数（お世話の内容別）

		N	ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日	不明・無回答
お世話の内容	食事の準備・そうじ・洗たく	78	51.3	26.9	15.4	5.1	1.3
	お風呂やトイレのお世話	53	54.7	26.4	15.1	1.9	1.9
	買い物・散歩などの付き添い(つきそい)	39	56.4	20.5	12.8	7.7	2.6
	通院の付き添い(つきそい)	3	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0
	話し相手	37	56.8	24.3	8.1	10.8	0.0
	見守り	52	63.5	15.4	13.5	7.7	0.0
	通訳（日本語や手話）	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	お金の管理	3	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3
	薬の管理	5	40.0	20.0	0.0	20.0	20.0
	その他	19	73.7	5.3	21.1	0.0	0.0

グラフ50. お世話の時間



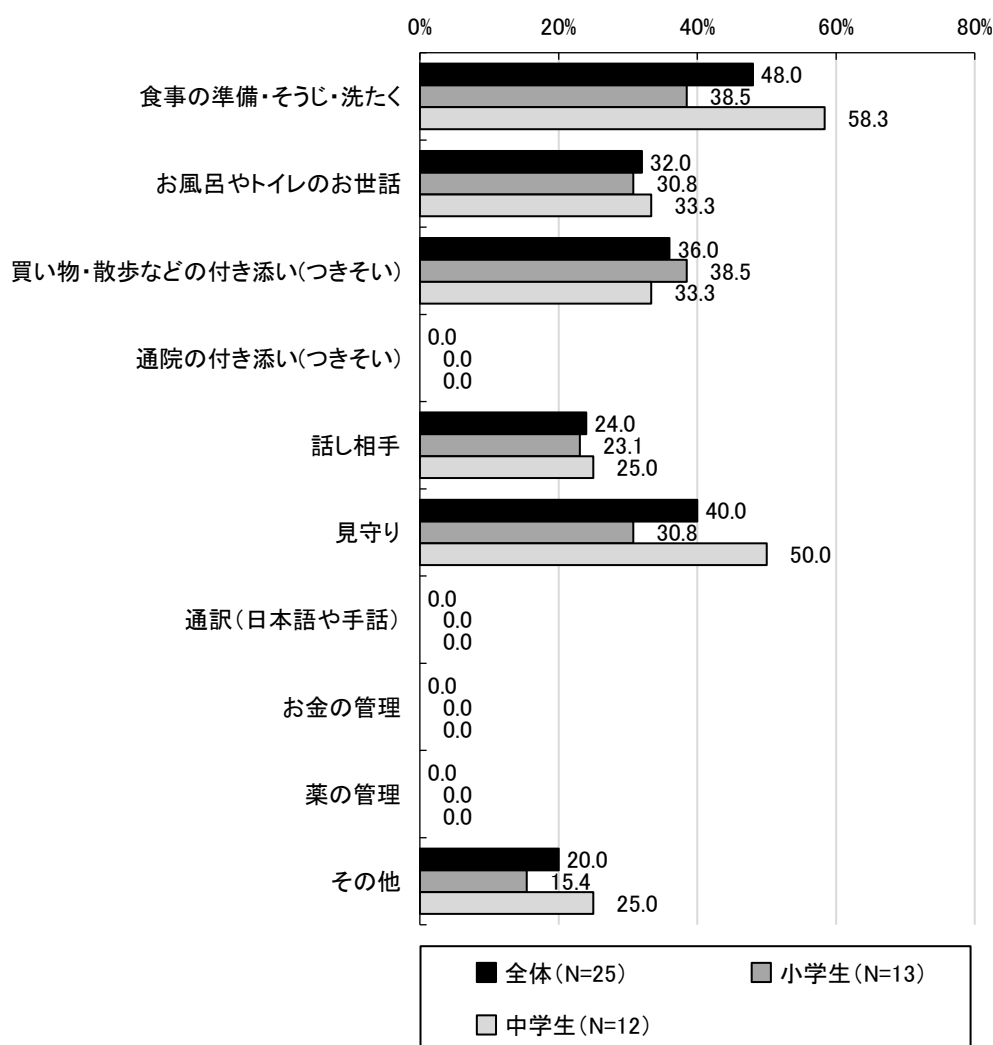
グラフ51. お世話の時間（お世話の内容別）

		N	1時間未満	1時間以上3時間未満	3時間以上7時間未満	7時間以上	不明・無回答
お世話の内容	食事の準備・そうじ・洗たく	78	55.1	28.2	10.3	6.4	0.0
	お風呂やトイレのお世話	53	52.8	30.2	5.7	9.4	1.9
	買い物・散歩などの付き添い(つきそい)	39	43.6	30.8	10.3	15.4	0.0
	通院の付き添い(つきそい)	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
	話し相手	37	59.5	24.3	8.1	8.1	0.0
	見守り	52	40.4	40.4	7.7	11.5	0.0
	通訳（日本語や手話）	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	お金の管理	3	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0
	薬の管理	5	40.0	40.0	0.0	20.0	0.0
	その他	19	57.9	15.8	21.1	5.3	0.0

グラフ52. 週3日以上、平日3時間以上のお世話をしている方

		N	1時間未満	1時間以上3時間未満	3時間以上7時間未満	7時間以上	不明・無回答
お世話の日数	ほぼ毎日	80	40.0	28.8	17.5	13.8	0.0
	週に3～5日	32	78.1	21.9	0.0	0.0	0.0
	週に1～2日	22	63.6	36.4	0.0	0.0	0.0
	1か月に数日	8	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0

グラフ53. 該当者がしているお世話の内容



グラフ54. 現在の悩み（長時間のお世話別）

		N	家のこと	学校や勉強のこと	クラブ活動や部活のこと	自分のこと (外見や体型など)	友だちのこと
お世話の 長時間の	該当	25	 28.0	 16.0	 8.0	 8.0	 24.0
	非該当	118	 14.4	 38.1	 14.4	 25.4	 18.6
	お世話なし	677	 10.3	 37.4	 14.2	 24.4	 17.0

		N	好きな人のこと	進学・進路のこと	いやなことや悩んでいること はない	その他	不明・無回答
お世話の 長時間の	該当	25	 8.0	 12.0	 32.0	 4.0	 4.0
	非該当	118	 11.0	 22.0	 27.1	 2.5	 2.5
	お世話なし	677	 9.9	 24.8	 33.7	 1.6	 2.4

④自分自身のことや家族との関係について

【調査結果のまとめ】

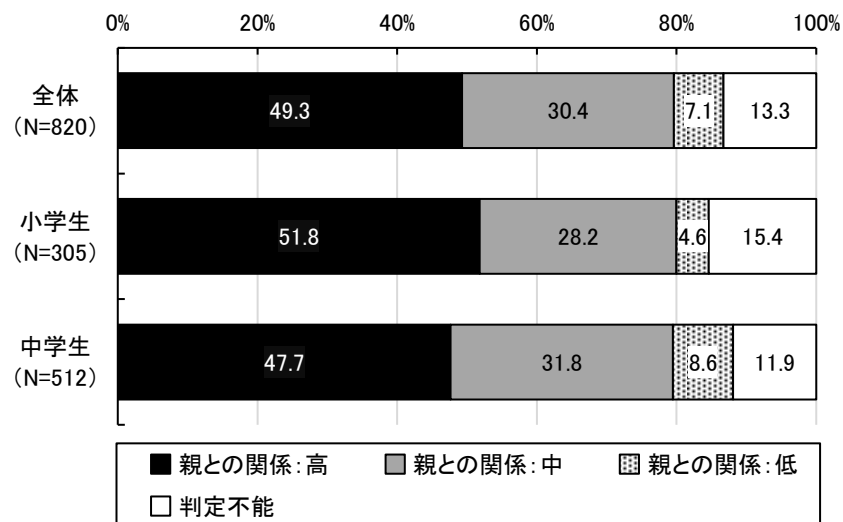
- 親との関係性ではまることの回答結果より、分析指標となる「親との関係」(グラフ 55)について算出すると、全体のおよそ5割の方が「親との関係：高」(親との関係性が良好であると思われる方)となりました。特に、子どもからみて、自分自身と真剣に向き合ってくれない、困っているときに助けてくれないと認識している場合に、「親との関係：低」と判定される傾向がみられます(グラフ 56)。
- 自分が好きか、大切にされていると感じるか、将来の夢や目標を持っているかの回答結果より、分析指標となる「自尊感情」(グラフ 57、58)について算出すると、全体の5割の方が「自尊感情：高」となりました。親との関係の視点から分析すると、〈親との関係：高〉の場合では「自尊感情：高」、〈親との関係：低〉の場合では「自尊感情：低」の回答割合が他の場合と比べて高くなる傾向がみられます。
- 現在の悩み(グラフ 59、60)については、小学生・中学生ともに「学校や勉強のこと」の回答割合が高くなっています。自尊感情の視点から分析すると、自尊感情が低くなるにつれ抱える悩みも増える傾向がみられ、特に「学校や勉強のこと」に加え、「自分のこと(外見や体形など)」の回答割合が高くなっています。また、親との関係の視点から分析すると、〈自尊感情：低〉の場合、「好きな人のこと」の回答割合が他の場合と比べて高くなっています。
- 悩みごとの相談相手(グラフ 61、62)については、全体では親や友だちという回答割合が高くなっています。自尊感情の視点から分析すると、自尊感情が低くなるにつれ「だれにも相談したくない」の回答割合が高くなっているほか、〈自尊感情：低〉の場合、「インターネットやアプリなどで知り合ったひと」の回答割合が他の場合と比べて高くなっています。また、親との関係の視点から分析すると、〈親との関係：高〉の場合には「親」の回答割合が他の場合と比べて高くなっていますが、〈親との関係：低〉の場合には「相談できる人がいない」や「だれにも相談したくない」の回答割合が他の場合と比べて高くなっています。

【考察】

- ➡これまでの分析より、自尊感情は学校生活や放課後の過ごし方など、子どもの生活の様々な場面において影響がある可能性が確認できましたが、自尊感情の高低の変化は、親との関係性が要因の一つである可能性が調査結果よりうかがえます。今回の調査結果では、子ども自身の意見を真剣に聞いてくれないこと、子どもの気持ちを理解してくれないこと、困っているときに助けてくれないことといった、子ども自身の気持ちを尊重しない関わり方が、子どもから見て、親との関係性を良好でないと認識する要因となっている可能性がうかがえます。したがって、子どもの将来を豊かなものにするためには、子どもの主体性を尊重した関わり方について、保護者をはじめ、子どもと関わる大人に対して周知啓発を進めていくことが重要な取組になると考えられます。
- ➡自尊感情が低い場合、悩みごとの相談相手としてインターネット上で知り合った人を選ぶ傾向がみられます。前述したように、色々な人と出会えることや、自分自身を受け入れてくれる場があることなどがインターネット上での交流における利点である一方、近年はインターネット上での特殊詐欺やSNS上でのトラブルなども社会問題として注目されていることより、ネッ

トリテラシーについて学ぶ機会を提供するなど、ネットトラブルに巻き込まれないための周知を進める必要があるほか、インターネット上以外で、信頼できる大人に相談したり、放課後などを安心して過ごすことができる場の提供を進める必要もあります。

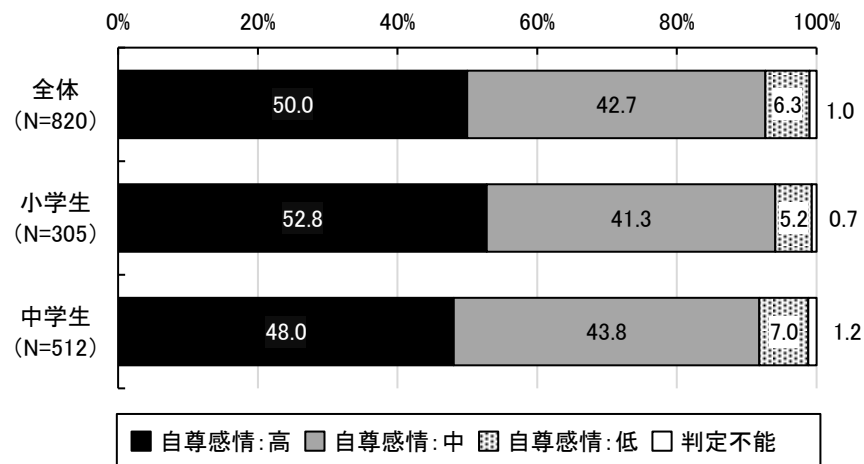
グラフ55. 分析指標「親との関係」



グラフ56. 分析指標「親との関係」を構成する設問と該当状況の関係

		N	親との関係： 高	親との関係： 中	親との関係： 低	判定不能
① 私の言うことを真剣に聞いてくれる	まったくあてはまらない	38	0.0	0.0	92.1	7.9
	あまりあてはまらない	25	0.0	28.0	56.0	16.0
	どちらともいえない	65	3.1	70.8	12.3	13.8
	まああてはまる	270	28.9	60.7	0.4	10.0
	非常にあてはまる	376	86.2	8.5	0.0	5.3
② 分かっての気持ちを持てる	まったくあてはまらない	45	0.0	4.4	91.1	4.4
	あまりあてはまらない	31	0.0	38.7	41.9	19.4
	どちらともいえない	96	8.3	74.0	2.1	15.6
	まああてはまる	256	31.6	55.9	0.8	11.7
	非常にあてはまる	365	86.3	5.8	0.0	7.9
③ ③ 困っている時に助けてくれる	まったくあてはまらない	40	0.0	0.0	92.5	7.5
	あまりあてはまらない	14	0.0	21.4	64.3	14.3
	どちらともいえない	49	6.1	55.1	16.3	22.4
	まああてはまる	199	11.1	72.4	2.0	14.6
	非常にあてはまる	501	75.6	15.0	0.0	9.4
④ ④ 学校生活で出ている話を話している	まったくあてはまらない	56	0.0	39.3	55.4	5.4
	あまりあてはまらない	43	4.7	51.2	32.6	11.6
	どちらともいえない	81	17.3	56.8	8.6	17.3
	まああてはまる	232	37.9	51.3	2.2	8.6
	非常にあてはまる	373	80.4	10.7	0.3	8.6
⑤ ⑤ 保護者やが好きな人とお話しする	まったくあてはまらない	40	0.0	12.5	80.0	7.5
	あまりあてはまらない	32	0.0	50.0	43.8	6.3
	どちらともいえない	106	4.7	71.7	9.4	14.2
	まああてはまる	220	34.5	55.9	0.5	9.1
	非常にあてはまる	391	82.6	7.4	0.3	9.7

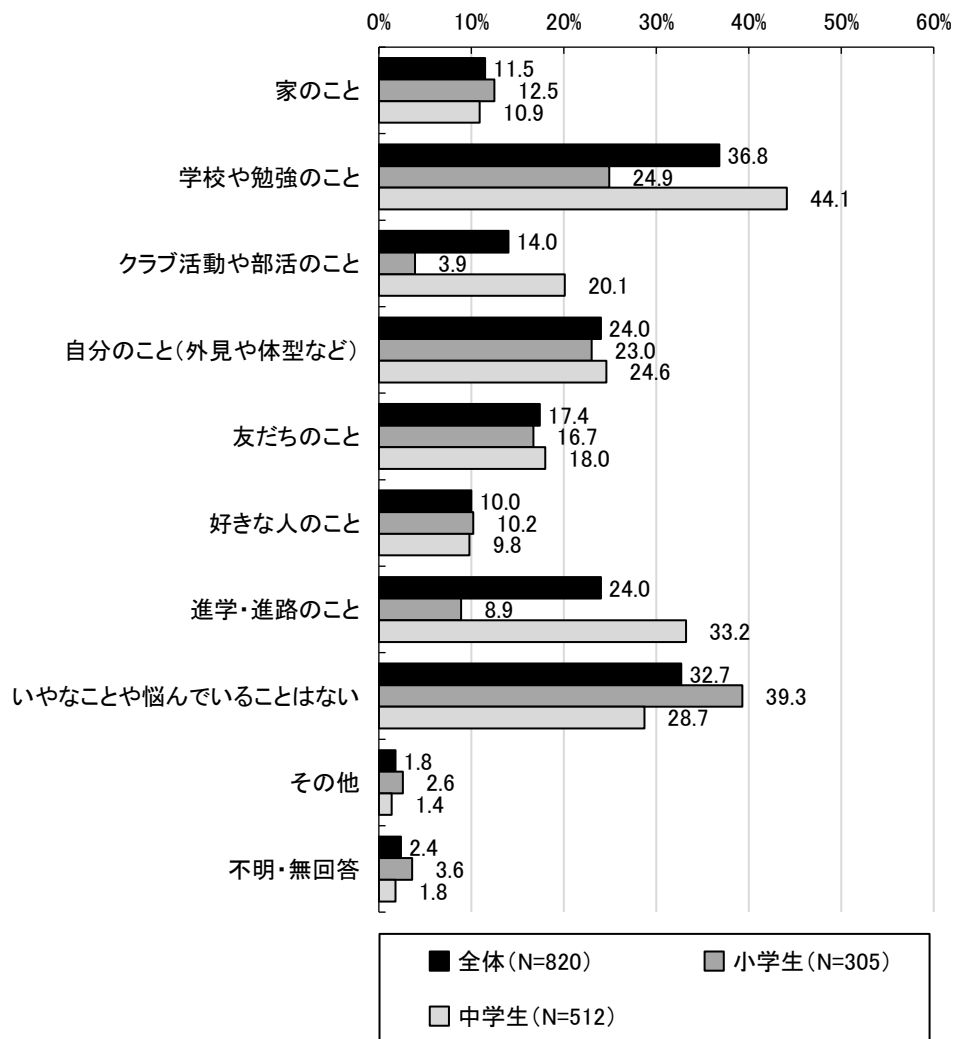
グラフ57. 分析指標「自尊感情」



グラフ58. 分析指標「自尊感情」(親との関係別)

		N	自尊感情：高	自尊感情：中	自尊感情：低	不明・無回答
親との関係	親との関係：高	404	62.1	34.4	2.5	1.0
	親との関係：中	249	35.3	53.4	10.0	1.2
	親との関係：低	58	39.7	43.1	17.2	0.0

グラフ59.現在の悩み



グラフ60.現在の悩み（自尊感情・親との関係別）

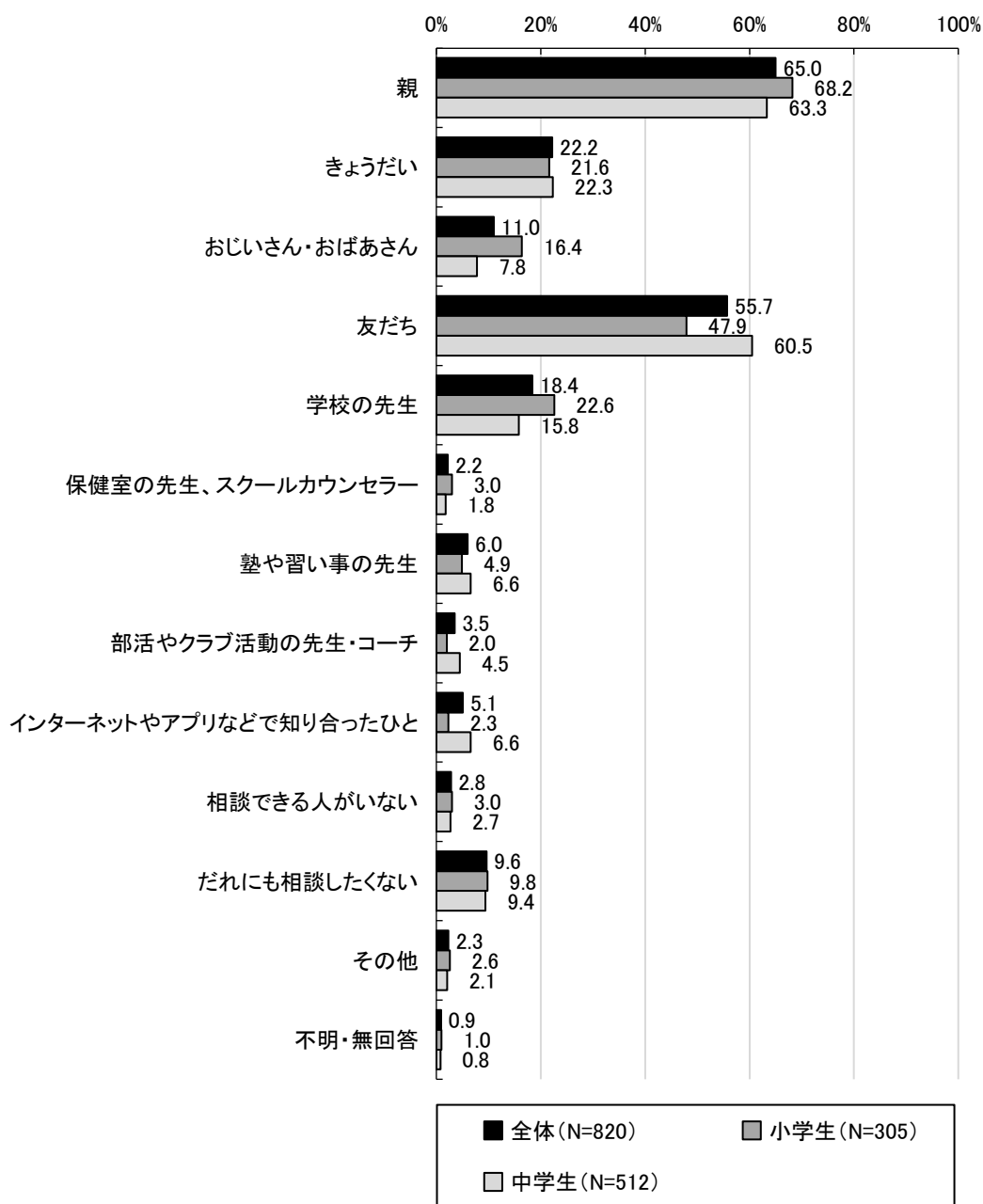
		N	家のこと	学校や勉強のこと	クラブ活動や部活のこと	自分のこと (外見や体型など)	友だちのこと
自尊感情	自尊感情：高	410	8.0	31.2	12.0	18.0	13.7
	自尊感情：中	350	13.4	40.3	15.1	28.3	20.6
	自尊感情：低	52	25.0	61.5	25.0	44.2	26.9

		N	好きな人のこと	進学・進路のこと	いやなことや悩んでいることはない	その他	不明・無回答
自尊感情	自尊感情：高	410	10.5	20.2	37.8	2.4	2.9
	自尊感情：中	350	10.0	26.9	28.9	1.4	1.7
	自尊感情：低	52	7.7	36.5	15.4	0.0	1.9

		N	家のこと	学校や勉強のこと	クラブ活動や部活のこと	自分のこと (外見や体型など)	友だちのこと
親との関係	親との関係：高	404	6.9	31.2	11.1	17.8	13.1
	親との関係：中	249	15.3	41.4	14.9	31.3	23.7
	親との関係：低	58	17.2	46.6	19.0	25.9	19.0

		N	好きな人のこと	進学・進路のこと	いやなことや悩んでいることはない	その他	不明・無回答
親との関係	親との関係：高	404	7.4	20.5	40.3	2.2	2.2
	親との関係：中	249	8.4	26.1	24.9	0.8	1.2
	親との関係：低	58	19.0	32.8	25.9	3.4	5.2

グラフ61. 悩みごとの相談相手



グラフ62. 悩みごとの相談相手（自尊感情・親との関係別）

		N	親	きょうだい	おじいさん・ おばあさん	友だち	学校の先生	保健室の先生、 スクール カウンセラー	塾や習い事の 先生
自尊感情	自尊感情：高	410	72.0	26.8	14.4	57.3	21.0	2.4	7.1
	自尊感情：中	350	60.3	17.7	8.0	56.6	16.0	1.4	5.1
	自尊感情：低	52	40.4	17.3	5.8	38.5	17.3	5.8	3.8

		N	部活やクラブ 活動の先生・ コーチ	インターネット やアプリなど で知り合った ひと	相談できる人 がいない	だれにも相談 したくない	その他	不明・無回答
自尊感情	自尊感情：高	410	4.1	3.7	1.5	6.6	2.7	0.5
	自尊感情：中	350	2.3	4.6	3.1	11.1	1.7	1.4
	自尊感情：低	52	5.8	17.3	9.6	23.1	3.8	0.0

		N	親	きょうだい	おじいさん・ おばあさん	友だち	学校の先生	保健室の先生、 スクール カウンセラー	塾や習い事の 先生
親との 関係	親との関係：高	404	77.2	26.5	15.6	58.7	22.5	1.7	7.4
	親との関係：中	249	50.6	14.9	4.8	55.0	12.0	2.0	4.4
	親との関係：低	58	50.0	24.1	5.2	51.7	20.7	1.7	1.7

		N	部活やクラブ 活動の先生・ コーチ	インターネット やアプリなど で知り合った ひと	相談できる人 がいない	だれにも相談 したくない	その他	不明・無回答
親との 関係	親との関係：高	404	3.7	3.7	0.2	4.7	2.2	1.0
	親との関係：中	249	2.4	7.2	4.8	13.3	2.8	0.8
	親との関係：低	58	1.7	6.9	15.5	20.7	1.7	1.7

⑤自由回答：あなたは、将来どんな仕事がしたいですか。

★具体的な職業

意見のカテゴリ	回答件数
漫画家・イラストレーター	36
その他スポーツ選手（野球、サッカー、水泳選手以外）	31
美容師	30
看護師	23
保育士・幼稚園教諭	23
YouTuber などのネット配信者	22
パティシエ（ケーキ屋）	21
歌手・アイドル	20
学校の教師・先生	20
プロ野球選手	17
デザイン関係（ファッション・ゲームなど）	15
コック・板前（料理人）	15
大工・建築家	13
医師（歯科医師含む）	12
エンジニア・プログラマー（機械・技術・IT系）	12
プロサッカー選手	11
会社員	11
薬剤師	11
eスポーツプレイヤー・プロゲーマー	11
警察官	9
研究者	9
運転士	5
公務員	5
パン屋	4
消防士	2
その他の職業	184
ない・まだ決まっていない	80

★将来の希望

意見のカテゴリ	回答件数
人の役に立つ・人を助ける	60
楽しいと思える（やりがいがある）	31
人を（元気）幸せにする	20
収入の良い仕事（お金持ちになる）	13
自分の好きなこと・得意なこと	11
自分に合った仕事	11
給料が安定している	10
人と関わる仕事	7
親の仕事	5
その他	13

★自由回答の紹介（一部抜粋）

意見のカテゴリ	回答内容	学年	性別
人の役に立つ・人を助ける	人を助けたり、世話をしたりする仕事	中学3年生	女
	みんなから頼られて、信頼されて、人助けができる人	中学1年生	男
	仕事じゃないけど誰にでも優しく接せるようになりたい	小学5年生	女
楽しいと思える（やりがいがある）	自分がしていて楽しいと思う仕事	小学6年生	男
	その仕事をして良かったと思える瞬間が来る仕事	中学3年生	女
	苦にならない仕事	中学3年生	女
人を（元気）幸せにする	その仕事で関わった人々を笑顔にできるような仕事がしたい。	中学1年生	男
	えがおで笑える楽しい仕事	小学5年生	男
	みんなを元気づける、前向きにさせる、	中学2年生	男
収入の良い仕事（お金持ちになる）	お金持ちになって楽をしたい	小学6年生	女
	稼げて楽しい仕事	中学3年生	女
	年収が600万以上の仕事	中学1年生	女
自分の好きなこと・得意なこと	自分が得意と思っていることや、やりたいと思える仕事	中学3年生	男
	自分の個性が活かせる仕事	中学3年生	男
	「自分」を活かせる仕事	中学3年生	女
自分に合った仕事	自分のペースで働ける仕事	中学3年生	男
	自分の意見を聞いてくれるような仕事	中学2年生	女
	自分にあった仕事	中学2年生	女

- ⑥自由回答：あなたは、子どもが安心して、自分らしく生き、一人一人が夢や希望を持って成長していけるには、どんなことが大切だと思いますか。自由に記入してください。

★第2期子ども・子育て支援事業計画の施策体系と関連する回答の状況

意見のカテゴリ	回答件数
人権教育の推進	56
信頼される学校づくり	31
子どもの居場所づくり	23
子どもを犯罪などの被害から守るための活動推進	13
多様な体験活動の機会の充実	11
次代の親の育成	3
児童虐待防止対策の充実	3
経済的自立に向けた支援	3
青少年健全育成事業の推進	2
読書環境づくり	1
すべての子育て家庭への支援	1

★自由回答の紹介（一部抜粋）

意見のカテゴリ	回答内容	学年	性別
人権教育の推進	男女差別や、いじめ、親の理想を押し付けられない	小学6年生	女
	人の夢を馬鹿にせず、差別やいじめをしないように皆心がけていけば自分らしく生きれると思う	小学6年生	-
	世の中のいる人のことをしっかりと理解し合い、お互いが尊重できる社会を作ること	中学3年生	男
信頼される学校づくり	クラスを勉強が得意な人と苦手な人で分けて、一人一人のレベルにあった授業をする	中学1年生	女
	勉強をしっかりと自分の夢が叶うように今できることをしっかりする	中学2年生	男
	学校がしんどい場所でないこと	中学1年生	女
子どもの居場所づくり	子どもが安心して楽しく過ごせる場や環境が必要だと思う	中学3年生	男
	いじめや差別を受けて、困っているときに相談に乗って貰えれば良いと思う	中学1年生	男
	安心できる場所と人がいること	中学3年生	女

意見のカテゴリ	回答内容	学年	性別
子どもを犯罪などの被害から守る	犯罪のない平和な環境が大切だと思う	小学5年生	女
	犯罪者がいなくなる。子供にとって安心出来る場所を増やす	中学1年生	女
	子供のためになる政治や子供を守れる社会を作ること	中学3年生	男
多様な体験活動の機会の充実	地域活動を増やして色々な人たちと交流できる機会をつくり、そこで自分の個性をいかすことだと思う	小学6年生	女
	いろいろなことを体験できるイベントなどを開催する	中学2年生	女
	地域の人や他の学校の生徒などと交流する	中学1年生	女
次代の親の育成	子供にいろいろな職業や仕事を知ってもらう	中学3年生	女
	いろいろな事を知ったり、周りの人と関わったりすることでいろんなことが学べると思う	中学1年生	男
	色んなことを経験して自分が好きなことやなりたい仕事を探したら良いと思います。	中学2年生	女
児童虐待防止対策の充実	しっかりと話を聞いて、暴力を与えない。だめなことはしっかりと叱る	小学5年生	女
	虐待や殺人がない	小学5年生	-
	自分の子供だからといって暴力や嫌がっていることをさせないことが大切だと思う。	小学6年生	男
経済的自立に向けた支援	食べ物や家	小学5年生	女
	貧困によって困っている人や、ヤングケアラーなどで、困っている人が夢を見れるよう、支援をしていくことが大切だと思った。	中学3年生	男
	貧困を無くす	中学2年生	女
青少年健全育成事業の推進	ケンカのない場所	小学5年生	女
	トラブルを起こさない	中学2年生	男
読書環境づくり	小さい時から読書をさせる	中学1年生	男
すべての子育て家庭への支援	公園、遊園地、交通、飲食料金など安くする	中学1年生	男

★その他の回答の状況

意見のカテゴリ	回答件数
意見、個性が尊重されること	95
周りの環境（サポート・理解してくれる人がいる）	90
自分らしく生きる（選択の自由がある）こと	75
希望・夢・目標を持つ、諦めない	68
優しさ、思いやり	43
自信を持つ、自己肯定感	42
コミュニケーション力・助け合い	38
家庭環境・家庭教育	36
相談相手に関すること	35
平和（戦争がない世界等）	18
その他	68
とくにない・わからない	28

★自由回答の紹介（一部抜粋）

意見のカテゴリ	回答内容	学年	性別
意見、個性が尊重されること	一人ひとりの個性を大事にする	小学6年生	女
	自分や他人の意見や考え方などを重視する。	小学5年生	男
	社会が自分らしく生きている人を否定しない。子供が楽しく生活でき、夢をもてること。	小学6年生	女
周りの環境（サポート・理解してくれる人がいる）	保護者や家族、先生がその子の悩みや考えを否定せず怒るときは怒る、優しくするときには優しくすることが大切だと思います。	小学6年生	女
	大人に支えてもらい、しっかりと守ってもらえることが大切だと思う。	小学6年生	男
	子どもの夢を支えてくれる人	中学2年生	男
自分らしく生きる（選択の自由がある）こと	その人にあったことをさせてあげたらいいとおもう	中学2年生	女
	周りに流されず自分らしく生きることが大切だと思う	中学3年生	女
	いろいろな人と接して自由になれることが大切だと思います	中学1年生	男
希望・夢・目標を持つ、諦めない	自分の将来に向けて努力していくこと	小学6年生	男
	小さい頃から目標を立て自分の目標に向かってまっすぐ生きていけるようにすること。	中学2年生	男
	自分が好きだと思う事を突き通す事が大切だと思う	中学3年生	女

意見のカテゴリ	回答内容	学年	性別
優しさ、思いやり	誰かに大切にしてもらったら、自分も大切に する	小学6年生	女
	みんなが思いやりを持って、嫌な思いをする 人がいなくなるようにすることが大切だと思 う	中学3年生	男
	自分を大切に、ありがとう・ごめんを伝 えられるように礼儀正しくする	中学1年生	男
自信を持つ、自己肯定 感	自分を大切にすること、大切にしてもらうこ と	小学6年生	女
	みんなが自分のことに自信を持って自分を 傷つけないことが大切だと僕は思います。	中学1年生	男
	周りの人に囚われずに自分は自分のことだ けを考えて、自分に自信を持つことが大切だ と思います。	中学2年生	女
コミュニケーション 力・助け合い	みんな協力して、支え合っていけばいいと思 う	小学5年生	男
	否定ばかりせずに関心を持って色々相談に のって真剣に話し合う	中学1年生	女
	みんなが支え合っているいろんなことを話し 合えるような人がいたらいいと思う	小学5年生	女
家庭環境・家庭教育	親が子どもの話しをしっかりと聞いて子供を 不安にさせないこと	中学3年生	男
	親が子供のことを縛らない生活をさせるこ と	小学5年生	男
	親が子供を育てる責任を放棄しないこと	中学1年生	女
相談相手に関すること	悩んでいることや、困っていることを誰かに 相談すること	小学6年生	女
	何かあったときに相談できる環境があるこ と	中学2年生	女
	困ったときは周りにいる友達や大人などに 助けを求めてみる	中学3年生	女